

# マツダ新報第十九卷第一號（昭和七年一月號）目次



昭和六年度に於ける照明界の進歩	副社長 清水興七郎	(二)
内面半艶消電球採用に依る增收策	東邦電力株式會社 吉川康太郎	(三五)
新春詠(一)	高遠電燈株式會社 緒役 豊島晃	(二八)
マツダ閃光電球による懸賞寫真入選發表	取締役 (二九)	
ニュース	編輯部	(三二)
照明	(三三)	
製品	(三四)	
ラヂオ	(三四)	
照明學校	(三四)	
雑報	(三五)	
ある日の酒	田中貢太郎	(三六)
編輯後記に代へて	(四〇)	

# 昭和六年度に於ける照明界の進歩

東京電氣株式會社  
副社長

情水共七郎

一  
緒  
言

茲に昭和七年を迎へ聊か心氣の新たなるものあるに際し、恒例に

より昨年度の照明界における進歩の跡を振り見て其構成分子としての我々の努力の結果を回顧反省し今後の活動に資したいと思ふ。

顧みれば昨年は實に多難の一年であつた。一昨年の金輸出解禁以來一般經濟界の不況は年と共に又月と共に深刻の度を高め、一方國際經濟に於ても獨逸財政の破綻、英國金本位制の停止或は米國の增税等と世界的不景氣は其停止する所を知らず、加ふるに國內にては三度内閣を代へ、遂に歲末に於て金輸出再禁止を斷行するの止むなきに至つた。今後我國及び世界の財界並に産業界が如何になり行くかは、今俄かに豫斷を許さぬものがあるが、或は今後幾分前途に光明を發見し得るには非るかとも考へられる。若し果して然りとすれば今後の産業界は、茲數年間に嘗めた苦難を跳躍の前の前奏曲として、新たなる進展を示すべく誠に同慶に堪えぬ次第である。

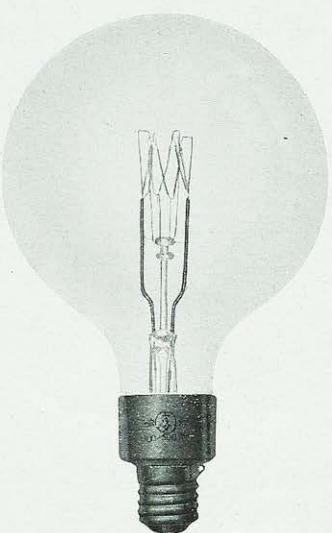
遮莫昭和六年の照明界は經濟史上未曾有の不況に災されて著しい發達を見たものは少かつたが、斯かる時代には内に深く研究を進むべきときで、以下に記す所其事項多きを得ないとはいへ、今後に期

電球に至つては今日に於ては最早一〇〇ワット等と同様普通品として特別の注意を要することなく製作し得るに至つた。是等の内探照燈用三キロワット電球は本年に於ける新製品と申してよからう。他の用途としては舞臺照明或は活動寫真撮影に於てスポーツ・ライトとし、或は航空機の著陸場照明に更に或は夜間スポーツに多望な將來を約束して居る。一〇キロワット電球の發散光束は約三〇〇、〇〇〇ルーメン、其一個に使用せられる纖條を以て二〇ワット電球を製作するトすれば優に七、五〇〇個を得られる。恐らく十年前の照明界には夢想し得ぬ所であつたらう。今日の處一〇キロ以上の電球に對する需要はない爲に、これ以上の容量のもの、製作は考慮されて居ないが、將來これが要求せらるゝことが多くなれば更

二  
電球

待し得ることの渺からざるは筆者の信じ且つ知る所である。

に研究發達を見るであらう。

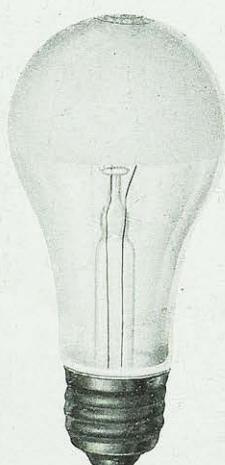


第 1 圖  
3 キロワット電球  
探照燈用

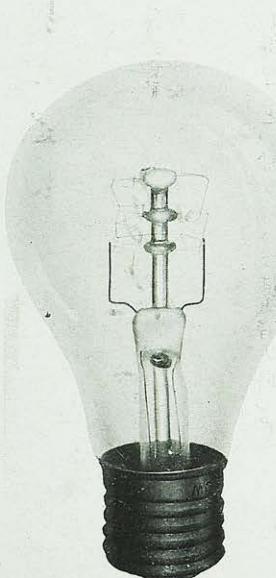
内面半艶消電球の出現は一昨年末のことにつき今これを再述するの要はないが、螺旋纖條を用ひた一〇ワット電球が一〇〇ヴァルト型に出来たことは特記に値すると思ふ。従来低容量の螺旋纖條は製作が著しく困難のため一二・五ワット或は一三ワットを以て最低として居たが、今般一〇ワット電球製作可能となり、従来の茄子型直線纖條の五一六燭に代ることなり、茲に完全に直線纖條電球に置換へるべき内面半艶消電球の全線は完成したのである。内面全艶消電球の特長を其儘繼承し、然も透明電球同様に内部を點検し得ることは、全製作工程の自動機械化と相待つて、電球界の覇者としての資格を十分に有するものと考へられる。

第三の發達は耐震電球であつて船舶用、電車用其他震動特に甚しい場所に多く用ひるべきもので、何れも特殊の纖條を用ひて居る。其構造の例は圖に示す如く、二本の螺旋を頂部のニッケル線を以て連續させたもの、或は纖條を矩形状に纏綿したものなどがあ

り、夫々の用途を有つて居る。  
第四の發達は全光電球と稱する従来の乳色電球と同一の效果と、從つて同一の使命とを有するもので透過率は著しく良好である。シヤンデリヤ、グラケット等に電球を露出せしめた儘にて使用する場合等に適當であらう。



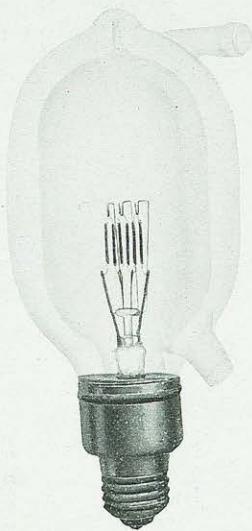
第 2 圖  
10 ワット電球  
内面半艶消電球



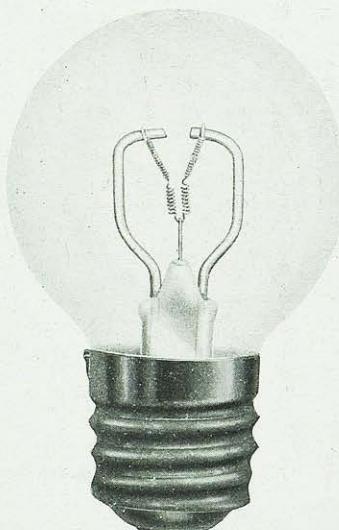
第 3 圖  
マツダ耐震電球

第五の發達は上記と同様のものであるが、有色塗料を以て硝子球内面より著色したもので、従来の外面スプレー著色に代り風雨に對し何等痛痒を感じぬから正に遺憾なきサイン電球である。ネオン・サインは些か飽かれ氣味にて、ネオン管と白熱電球併用の益々多からんとする機運に際會し、其出現は誠に時を得たりといひ得やう。

# マツダダグ新報

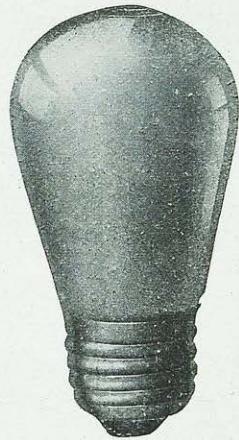


第5圖 水冷式電球



第8圖 電機用電球

マツダダグ飛行機用電球



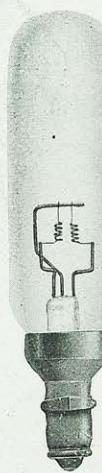
第4圖 現在市場に發表せられたもの

赤、琥珀、黄等の色は白、

著色剤による口金汚損等の凡ゆる缺點が一掃され、普通電球と壽命に變化なき鮮明な色彩を放つ電球が完成した譯である。

水冷式電球の出現も一顧の價値がある。實物幻燈を使用するに際し困難を感じることは電球の輻射熱によつて、映寫紙のそることで此輻射熱を減少させるために出來たものが即ち水冷式電球である。

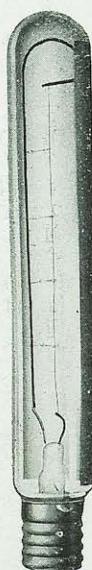
これは瓦斯入電球の周圍を更に硝子球で二重に包み、其二硝子層間に水を流し、其水層によつて赤外線を吸收しようとするものであるが、此場合光は二枚の硝子壁を経、更に水によつて光の吸收を多くするから、光の能率は低下することは止むを得ないが、實驗の結



第7圖 トーチ用電球  
マツダダグ

果によれば其低下率は極めて僅少で、實用上何等差支ないことが判つた。實物幻燈取扱者にとつて一の福音といふてよからう。

飾窓、陳列幽等に使用せらるべき管型電球に對し、硝子球半面を鏡面とし反射笠の必要を除去したものも出來た。これは中型二五ワットのみに就て製作されて居るが、從來のニッケル鍍反射柵を用ひた四〇ワットと其綜合能率を畧々等しくするから頗る經濟的である。



第6圖 一面鏡用電球  
マツダダグ

極めて慎重な注意を要する。後者は飛行機内に取付けられるもので其一例を第八圖に示した。



圖 9 - バーベ電球  
第 1 パーベ

子球の内面に  
白色塗料を被  
り、之を七本直列に點燈してシャンデリヤをなすシャンデリヤ用電球、或は第九圖に示されるバーベ電球の發達も昨年のこと

に屬する。

二、特殊電球 健康意識の發達は我國のみならず世界を通じて見られる現象で、或はスポーツの流行となり或は健康増進剤の夥しい出現となつて、近代人の健康至上の觀念を如實に示してゐる。これに



圖 10 ツンダ電球  
第 2 マヤヤ



圖 11 マツダインフラ  
ライド  
第 3 ライド  
冬の交に始め  
て本邦に現れ  
た所謂バイタ

隨伴して董外線療法が多數の醫學者及び生物學者の支持を受けて人の注意を惹く様になつたが、此療法も從來醫家の獨占的技術なるかの如く考へられ、其發生裝置なる太陽燈即ち水銀弧燈も割合高價な上に、取扱上にも注意を要するため一般家庭に大いに普及することは期待し得なかつた。偶

バイタライド・ランプの如き董外線電球に對してインフラライド・ランプと稱する赤外線電球の發達も昭和六年の所産に屬する。此兩者は同種のものとも考へられるが、其身體に及ぼす作用は全然別であつて、即ち董外線の作用は比較的表面的（其皮膚下浸透度〇・一一〇・五耗）であるに反し、波長七、五〇〇—一五、〇〇〇オンゲストロームの所謂近赤外線は一〇—三〇耗も深く皮膚下に浸透する。これ即ち赤外線が適當なる理由であつて、之を董外線と共に身體にあてると充血作用を起し、皮膚を董外線に對して敏感にし董外



圖 12 識鏡用電球  
第 4 マツダ

爲に暑さを感じることが少い。又内面艶消による健康線及び光の損失も實際的には無視してよいから、艶消

のCX電球に比し何等遜色がないのみならず、其硝子球の董外線（特に所謂健康線）透過量は却つて幾分多いことは實驗によつて確かめられた所である。昭和六年に入つては從來の透明硝子球の外に、三〇〇ワット及び五〇〇ワット何れも白色内面艶消及び青色内面艶消の硝子球を用ひたものが出來た。後者の硝子球は青く著色しても健康線の透過は透明のものと殆ど差異がないのみならず、これから發する青い光は落ちついた感じをあたへ、且つ赤外線を多く吸收する

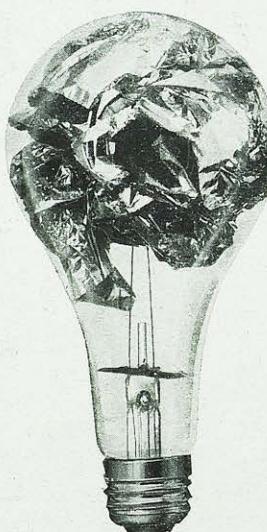
線の効果を助けるが、単獨にも種々な治療的效果をあけ得る。インフラライト・ランプは此目的に適應したものとして好評である。

鑑識用電球もインフラライト・ランプに酷似するものであるが、其理論従つて用途は大いに異つて居る。即ち天然物は三、五〇〇オングストローム近傍の波長の輻射を受ける時は、其物質特有の熒光を發することにより、斯くの如き波長の輻射を豊富に出す特殊の硝子を以て設計された電球であつて、暗所で之を以て諸物質を照らす時は、可視線では發見し得られない區別をなし得て、簡単な程度の物質の眞偽鑑定に使用し得る便利がある。

寫眞閃光電球の發達も昭和六年に於ける特記事項の一である。これは其壽命が殆ど瞬間的なることに於て、電球として在來の觀念と稍異なるものではあるが、それが光源たること、其形狀の全く普通の電球に酷似することに於て、之を電球の範疇に入れることは差支がないと思ふ。

これは極めて薄いアルミニウム箔を酸素中で燃焼させ、之によつて強烈な閃光を得て寫眞の撮影に使用するもので、其電源は一・五ヴォルトから一二五・五ヴォルト程度に及ぶから、乾電池一個でも普通の電燈線でも差支ないことになる。但し回路を閉ぢてから閃光を發する迄の時間は、使用電源の電壓によつて長短があり、大體三・五・六・九・十二・十五・二十秒程度である。ルトの電源では〇・〇二五秒、一〇〇ヴォルトで〇・〇一秒程度であ

○○○ルーメン秒、最大光束四、五〇〇、○○○ルーメンなる結果  
が得られて居る。



### 第 13 圖

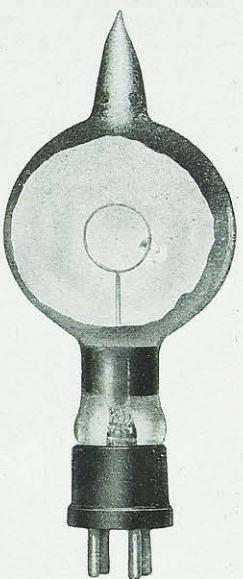
い場合の四一五倍の能率をあげ得るので、電球一個でマグネシウム  
閃光粉四一五瓦に優に匹敵する。

ネオン管燈は依然として需要が多かつた。東京電氣會社は從來より液體空氣よりアルゴン及び窒素を發生させて居たが、更に之より微量の存在たるネオン及びヘリウムの精製に成功し、茲にネオン管或はヘリウム管の完全なる國產化を見たことは些か誇りとする所である。ネオン電球も引續いて需要増加し將來五十六燭程度の低光度の白熱電球に置換へ得る日も遠くはないであらう。昭和六年度の需要は約七萬個であつた。

最後に近來電氣に關する諸應用方面の寵兒たる觀を呈する光電管は引續き研究が繼續され、最近は瀉光器との組合せに於て、最も肉眼の視感度曲線に近いカリウム光電管が得られ、米國製品との比較試験に於て遙に彼に優ることを自認せしめた。優良國產品に乏しい

マツダ新報

今日誠に同慶の至と申さねばならない。但し需要は未だ少く昨年は約五百個程度であつた。



第 14 圖

三、電球需要の趨勢 昭和五年の不況時代は引續き昭和六年の全期を覆ひ、地方によりては料金引下要望の意味に於ける減燭同盟すら出現するに至つた。従つて各電燈事業者は負荷増進の目的を以て増燭勧誘等を實施せられた向もあり、又それによつて相當效果をあげられた例もなしとは申されぬが、大體に於て取附燈數の増加率は減退し或は却つて減少せるものすらあつた。

然も照明知識の普及は益々其功を收め、平均光度は著しく増加するに至つた。今これを數字的に検討するに、先づ從量制用として販賣せられつゝある所謂赤マーテク電球の需要比率を見ると、第一表の如く六〇ワットが斷然優位を占め總數の三割以上となり、其平均容量も從つて四九ワットとなり、其推定平均光束は實に五六〇ルーメンを算するに至つた。

第一表 昭和六年に於ける從量用電球の需要比率

然し乍ら之を電球全般に就て見る時は、其需要状況は第二表の如く變化し、需要電球の平均容量は約三五ワットに低下し、其相當平均光束は約三二〇ルーメンを示す。但し本表では五一六一八燭を一〇ワット以下の項に、一〇燭を一二ワット、一六燭を二〇ワットに夫々換算編入した。

第二表 一般電球のワット別需要比率(昭和六年)

電球の大きさ (ワット)	以下	10	三	五	10	二十五	三十	四〇	六〇	八〇	一〇〇	其他
需要比率 (%)	七	三	一	一五	三	一〇	七	五	一	七	一	

更に之を最近の標準品種たる螺旋織條電球のみにつき需要分布を見ると、四〇ワット最も多く六〇ワット、二〇ワット之に次ぐことが示され、四〇—六〇ワットと二〇ワットとは異なる方面に使用せらるつあることが考へられ、又平均容量四四ワット従つて平均光束四三〇ルーメンは第四表の直線織條電球のそれと對比して一段高き値があたへられ將來の發展を暗示する。前年との比較のため瓦斯入電球のみの需要比率を見ると、四〇—六〇ワットが漸増し八〇ワットは依然として少い。

第三表 螺旋織條電球の需要分布(%)

年 度	電球の大きさ(ワット)	年 年 年 年 年 年 年	大 正 十 三 四 三 二 和 昭 和 昭 大 大
一〇	本欄は瓦斯入電球の	五 八 八 七 五	大 大
一一	みに關する比率を示	三 五 三 五 九	正 正
一二		六 八 三 〇	十 十
一三		三 三 四 三 五	五 四 三 二 和
一四		九 八 六 五 三	三 二 和 昭 和 昭 大 大
一五		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
一六		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
一七		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
一八		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
一九		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二〇		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二一		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二二		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二三		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二四		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二五		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二六		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二七		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二八		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二九		一 一 一 一 一	一 一 一 一 一
二〇〇	其他	一 一 一 一 一	一 一 一 一 一

マツダ新報

昭	昭	昭	昭	昭	昭	大	大	大	年
和	和	和	和	和	和	正	正	正	度
六	五	四	三	二		十	十	十	燭
年	年	年	年	年	年	年	年	年	光
七	六	六	九	八	九	八	九		五
一	+	+	+	+	+	+	+		六
八	五	四	四	四	五	六	五		八
二	三	三	三	三	二	三	三		一
八	四	五	六	二	九	○	二		○
三	三	三	二	三	二	二	二		一
六	四	五	九	○	四	七	一		六
一	一								西
六	○	一	七	九	六	六	六		土
四	四	四	六	六	六	七	八		三
六	四	四	六	七	八	七	八		二
一	四	二	一	三	四	三	九	一	五
四	二	一	三	四	三	九	一		○
一	四	二	一	三	四	三	九	一	其他

第四表 直線繩條電球の燐光別需要分布(%)

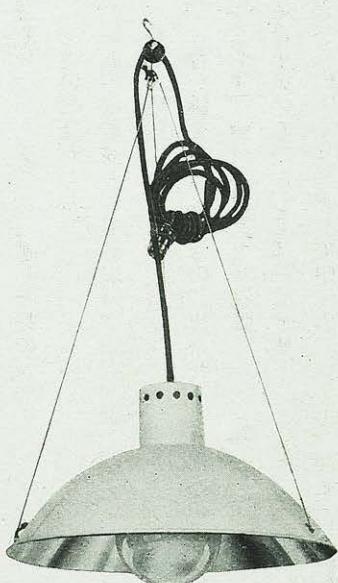
第四表は直線織條真空電球のみの需要分布を示すものであつて、今日の如く螺旋織條電球全盛時代に在つては、其意義は往年の如く重要性を有つて居ないが、尙地方電燈需要の概況を知るに参考となれると思ふ。本表で顯著な變化は多年電球需要界の覇者として君臨して居た一〇燭電球が一六燭と其地位を代へたことで、これは一面平均光度の向上を語るものであらう。

昭	昭	昭	昭
和	和	和	和
六	六	五	四
年	年	年	年
〇・一	す		
二・六			
一・四			
六・四			
四・四			
三・〇			
五・九	ハ	二	〇
二・六	元	三	元
一・五	三	〇	四
一・一	二	二	三
一・六	二	二	二
一・五	七	〇	二
	三	五	三

達があつて始めて行はれる。然して昨年の如き一般經濟界の不況時代には、特別に高級なる器具は別として大體に於て實用本位なもののが選ばれる。例へばバイタライト器具中でも、昭和六年に發表された所謂五號型及び六號型は何れも實用に基礎を置き、特に六號型は實用廉價を第一義とし體裁を第二位に置いたスタンダード型である。之に對し五號型は一般電燈線からコードにより聯結して任意の位置に



第 16 圖



## 第 15 圖

(備考) 昭和二十五年の数字には真空螺旋織條電球を包含する、又ワット制の分は相當燭光に換算した。

三 照明器具

一、屋内照明器具 一般に照明器具は之に取附けられる電球の發

# マツダ新報

吊下げ得る構造になつて居るから、家庭用としては極めて便利である。此吊下げる部分は三本の丈夫な長さを加減し得る紐で吊し、反対の傾斜を任意に調整し得る装置になつて居る。又紐の長さの調整は第一五圖に於て知られる通り極めて簡単な金具を滑らすことによつてなしうるから便利である。

屋内全般照明用として設計せられた昭和七年の市場に現はるべきものに所謂新型トロヂヤリヤがある。それは外球が上下二部に分れ、



第17圖  
新型トロヂヤリヤ



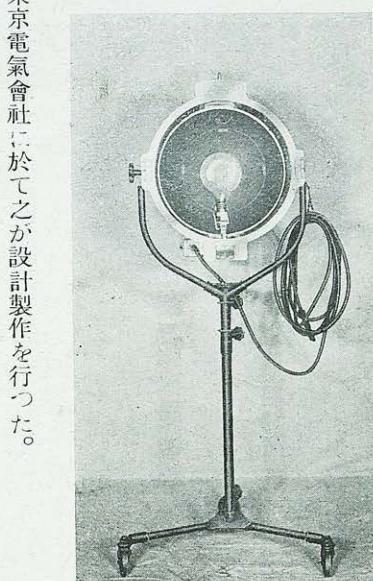
第18圖 J型 K型 窓反射用笠

金属製品に比し著しく超越した長所を有する。現在黒色及びチョコレート色の二種がある。

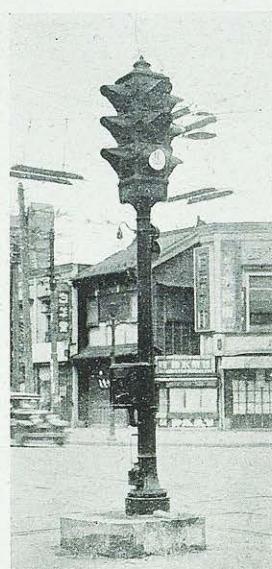
尙尙窓用反射笠として從來の市場品の如く笠面の脱離し易い缺點を改良し、取附の上に保護塗料を施し、更に其上に尙一回塗料を塗り之に厚い鍍金を施したもののが出来た。これは機械的に堅牢であるのみならず、塗料と外氣とを遮断してあるから耐久力は大である。

特殊用途のものとしては一八吋サン・ソフトの實用化をあげ得る。これは三キロワット電球の出現によつて具體化されたもので、能率よく且つ體裁優美である。

其開閉する所には特殊のバンドが使用されてあるため、電球取換の際にも外球を器具より外すことの必要もなく、従つて高所で取換をなすに便利である。これの外球の上半を透明にすれば半間接照明器具となるべく、下半を不透明反射體とし上部を透明にすれば間接照明器具として使用し得る。加ふるに外球支持物の直徑が小さいから



第19圖  
18時 サンズポット



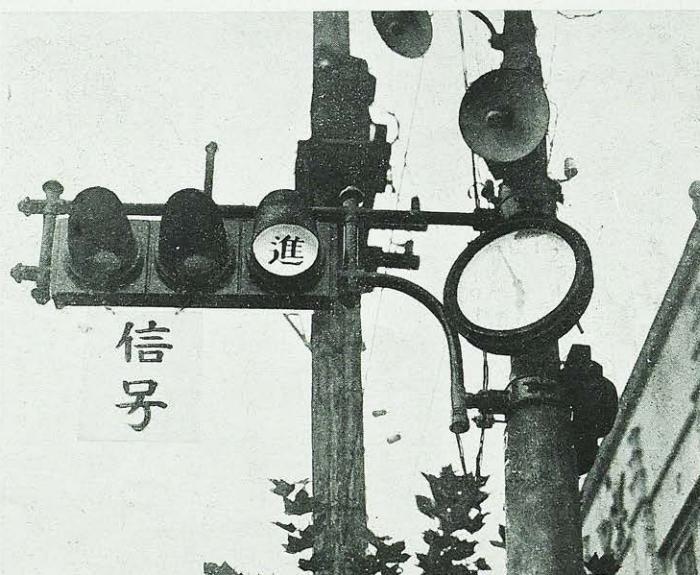
第20圖  
マツダ中央懸垂式交通整理燈

東京電氣會社に於て之が設計製作を行つた。

**二、屋外照明器具** 交通機關の急激な進歩と都市人口集中により都市交通難は激化され、交通の圓滑は害せられ歩行者の安全は脅

かされるに至り、特に最近自動車の普及は益々之を助長しつゝある。斯くの如き交通上の安全を確保し街路能率を増進するためには、從來通路交叉點の中央に於て行はれた手信號のみでは、到底目的を達成し難く是非とも科學的な整理法に據らなければならぬ。此目的に適ふ様に設計せられたものは所謂交通整理燈である。これは赤、橙、青の三色硝子レンズ内に收められた標示燈を用ふるもの

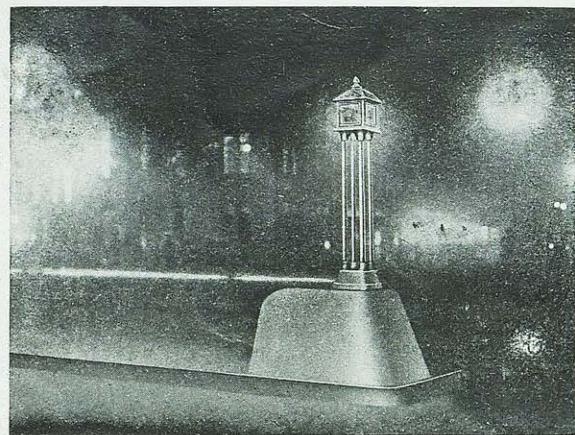
であつて、それが順次に組織的定時的に變遷することによつて交通整理を行ふもので、其方式は種々あり、中央懸垂式、四脚式或は燈柱式及びブラケット式が其主要なものである。特にブラケット式は道路の幅員廣く交通頻繁なる場所に使用される。此等はレンズの直徑を一〇吋とし使用電球一〇〇ワットのものが出來、現に東京、京都兩市に於て採用せられた居る。



第21圖 マツダ ブラケット式信號燈

東京市に於ては上野の交通整理燈施設に先だち、交通量の著しく多い街路の電車昇降場及び安全地帶數百箇所に同一型の標識燈を建

て第二〇圖に示す如き設備を行つた。此標識燈では從來の安全地帶標示燈と異り、赤色光の代りにアンバー色を採用して危険信號との混同を避け、其爲リップルしたアンバー色婦娥硝子を用ひて旁々美观と明視とに意を用ひて居る。



第22圖 安全地帶標識燈

尚バラベットには所謂ロー  
ド・サインを埋  
込み自動車の近  
接して前照燈の  
光が之に當る時  
は、其反射光に  
よつて運轉手は  
バラペツトの位  
置が明かに認め  
得る様になつて  
居る。此ロード  
サインも東京電

氣會社の考案にかかるものである。

**三、電燈器具** 電燈附屬器具に於て最も著しい發達は、ベーカライト即ち石炭酸樹脂系練物製品が從來の金屬製品を一掃したことである。東京電氣會社に於ては之をテコライトと名づけ、之を以てテコライト・ソケツト、テコライト・プレート、テコライト・タンブラー或はテコライト・レセプタクル等を製作して市場に發表した。是等の特質を摘記すると、(イ)耐熱(攝氏一五〇度迄使用可能)且つ

尚バラベットには所謂ロー  
ド・サインを埋  
込み自動車の近  
接して前照燈の  
光が之に當る時  
は、其反射光に  
よつて運轉手は  
バラペツトの位  
置が明かに認め  
得る様になつて  
居る。此ロード  
サインも東京電

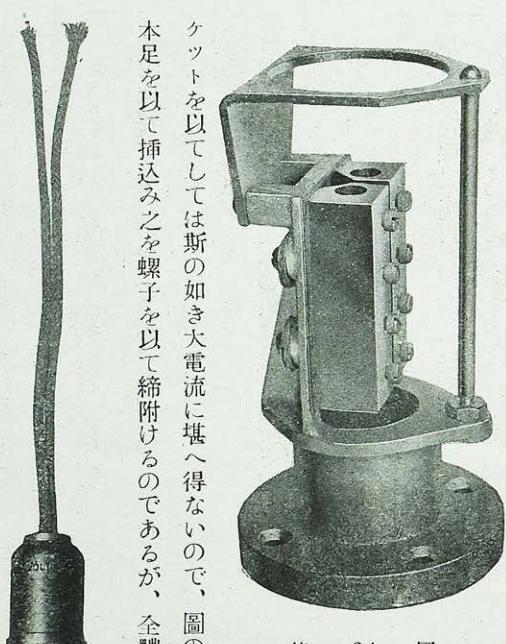
尚バラベットには所謂ロー  
ド・サインを埋  
込み自動車の近  
接して前照燈の  
光が之に當る時  
は、其反射光に  
よつて運轉手は  
バラペツトの位  
置が明かに認め  
得る様になつて  
居る。此ロード  
サインも東京電



第23圖 テコライト・ダンブラー

むことがない、(二)相當體裁に留意し仕上は美麗であること等をあ  
けることが出来る。種類はソケツト以外は黒色及びチヨコレート色  
の二種があり、各人の好みに應ずることが出来る。

尚一〇キロ又は五キロワットの如き高容量電球の發達に伴ひ、之  
に使用せらる、プロング・ソケツトが製作せられた。普通の捻込ソ



第24圖 プロング・ソケツト

ケツトを以てしては斯の如き大電流に堪へ得ないので、圖の如く二  
本足を以て挿込み之を螺子を以て締附けるのであるが、全體がアル

第25圖 中型ソケツト

耐水的である、(ロ)一一二キロワットの過負荷に對しても弧絡を起すことなく動作する、(ハ)製品は各部互換性を有し各部分は動作により弛

耐水的である、(ロ)一一二キロワットの過負荷に對しても弧絡を起すことなく動作する、(ハ)製品は各部互換性を有し各部分は動作により弛

これは上述のテコライト材料を用ひてあるから陳列函の如き密閉された場所でも溫度上昇に耐へ、又屋外用としても十分使用し得る。

## 四屋外照明

第 27 圖 地下鐵ビルのネオン時計

一、電氣サイン 電氣サインの流行は昨年度に於て更に一大飛躍



第 26 圖 キリンビールのネオンサイン

爲、之に適合すべき中型ソケット  
も出来た。

尙既述鏡面管型電球の口金は中型が使用されてある。

憾ながらし用し以て遺憾なからしめで居る。

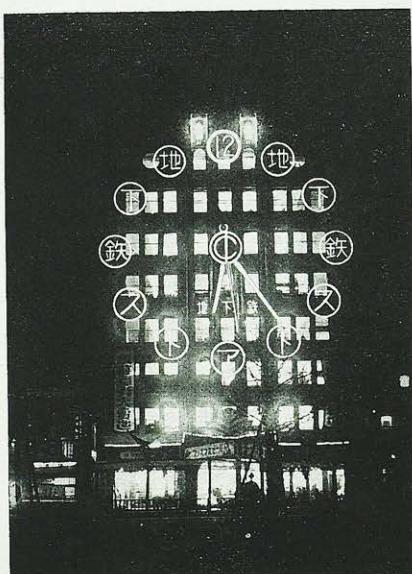
ミニウム雑物で出来て居るから、形の大きな割合に軽く取扱は簡便である。又此種のものに於て電氣的絶縁の完全なることは重要な條件であるが、

之には良質の雲母を數枚重ねて使

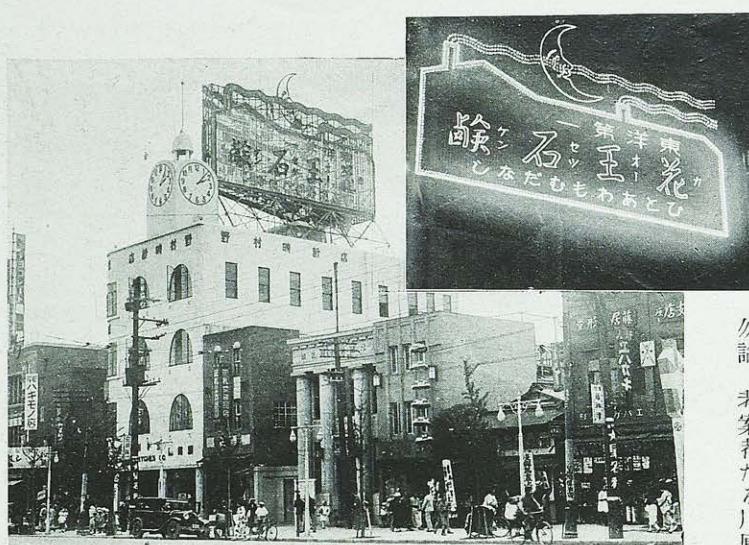
を見せ、大規模と嶄新とを競ひつゝ、次第に發達の度を高めて居る。

ネオン管サインは依然として需要多く其使用先を見るに、活動寫眞館、カフェー、料理店、食堂、百貨店は勿論、菓子、食料品、薬品化粧品等の廣告によく採用せられ、更に進んで電鐵、病院、銀行等に及んだ。大規模なものゝ例として第二六圖に圖示した麒麟麥酒會

社横濱工場に於て電球サインを改造してネオン・サインとなつたものは、ネオン管の延長六〇米に及ぶものである。又東京上野驛頭に在つて夜の下車客の眼を駭かせる地下鐵ビルのネオン・サイン時計も其大規模なことに於て、將又單に時計として世界最大たるに止らす、テレクロニクス親時計に依つて調節せられたる東京電燈會社の電路周波数の均齊を利用し、同期電動機の迴轉を直ちに時の指示に轉換したものであつて、サインとしても其嶄新性と大規模性を主張するに足るものがある。今大時計に關する二三の數字を見るに次の如くである。



# マツダ・新報



第 28 圖 サイズの花王石鹼

管の設計  
をネオン

に時を知  
らしむる  
に至つた  
に就て  
は、其功  
○ワット電球の組合せによるもの、  
何れも東京電氣會社の設計製作にか

る。之に對し關西に於ける雄は兵庫縣  
加古川橋上に架設せられた日本毛織  
會社の大サインであつて、青色及び  
赤色のネオン管と黃色及び赤色の二  
種の電球を組合せたものである。

之を從來世界一と稱せられた米國ニューヨーク市に比較するも殆ど二倍に近い。これが建設に就ては東京地下鐵道會社は勿論、考案者たる川原田教授、設計者

たる大塚 鐵工場等

の努力によること

であつて、又こ

れがネオ

ン・サイ

夜の上野

花王石鹼

の輪廓に青色ネオン管

及び橙色電球を使用し、工場煙突の

煙をあらはすためには黄、橙色電球

を點滅させる。此サインに使用せら

れた電球數は約一、五〇〇個、ネオ

製作を担当した東京電氣會社の技術と努力とに歸すべきであらう。

五年來隨所に見らるゝに至つたが、

其巨大なものとして東京上野廣小路に去る七月建設せられた花王石鹼の

兩面サインをあける。これは圖の如く工場の圖案の輪廓に青色ネオン管

及び橙色電球を使用し、工場煙突の

煙をあらはすためには黄、橙色電球

を點滅させる。此サインに使用せら

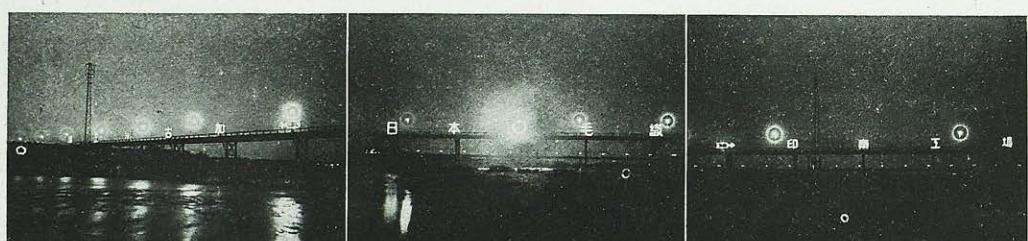
れた電球數は約一、五〇〇個、ネオ

ン管の延長は三四〇米、看板の大きさ

一二米×六米といふ實に關東最大の

サインである。然もサインの高さは地上約三〇米、加ふるに絶好の地の

利はサインの効果を著しく加重して



第 29 圖 インサイド・インの日本毛織

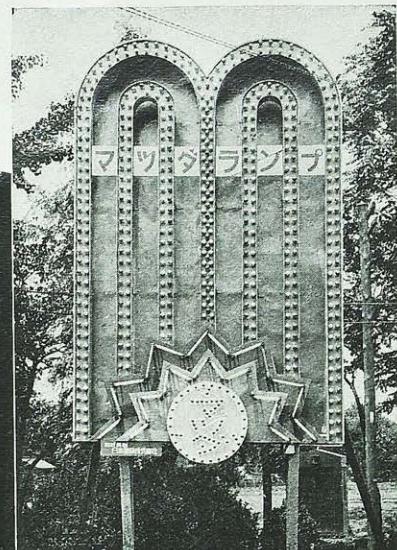
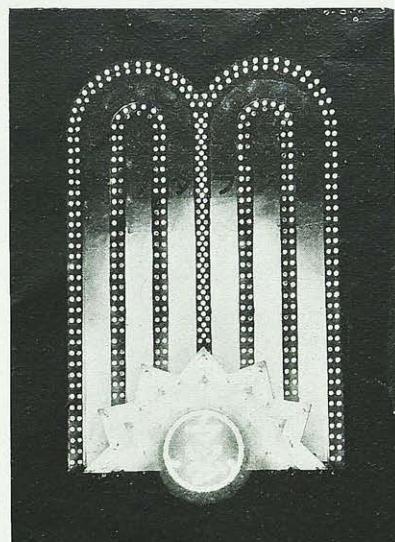
るもので  
ある。

電氣サイ  
ンに就て尙  
特記すべき

は東京市電  
氣局が昭和  
六年夏同局

創立二十周年記念として電氣サイン展覽會を催し、又關西に於ては  
七月二十日より三十日間神戶市に於て照明學會主催の下に行はれ、  
更に七月十二日より四十日間札幌市に於て北海道拓殖博覽會主催、  
照明學會後援の下に開催され、多大の注意を惹いたことである。

又トーキング・サインに就ては一兩年前から有力新聞社に於て施設されて居たが、一昨年電燈五十年祭の紀念事業として企圖され創

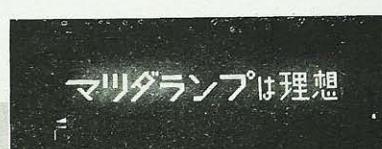


第 30 圖

記品出年社電市東京サ

立てられた日本電氣サイン株式會社は、昭和六年四月東京京橋第一相互館屋上にトーキング・サイン設備を完成し、電光ニュースのサービスを開業した。同施設は縦八尺横七〇尺の大きいさで、單に文章のみならず漫畫、商標等も自由に使用し得ると、色電球を用ひ得る設備のあることを特色として居る。

## 二、溢光照



第 31 圖 日本電氣サイン會社のトーキング・サイン

と發揮せられるであらう。昭和六年秋英國に開催された國際照明會議或は巴里に開かれた植民地博覽會等に於て、都市美效果が溢光照明によつて如何に累加されたかは既に一般の認識する所であつた。美は更に一段ある時は建築間の觀賞を得るのみであり、又若し之

我國に於ける昨年度の溢光照明施設として特記に値するものは、目下建築中の帝國議事堂及び増築完成せる三越本店のそれである。

帝國議事堂は今や其外廓の工事殆ど完成し、東京麹町區永田町の高臺に白い花崗岩を以て圍まれた雄姿が聳え立つて居るが、中央に位する地上六六米の高さを有する高塔は、左右に貴衆兩議院を控へ廣く東京中心地は勿論、遙かに房總の地をも望み得るものである。

これに溢光照明施設の計畫があつたことは、蓋し當然とはいへ實に所を得たといふべく、本年以後に於ける開院式が如何に生彩を添へ清く明るい政治を象徴するに役立つかは期待に難からぬ。



第 32 圖  
帝國議事堂高塔  
の溢光照明



第 33 圖  
三越塔の溢光照明

使用せる五〇〇ワットの投光器（東京電氣會社型錄番號六一一五）を以て行はれた。東南北面各六個、西面五個、又上部小塔に對して各面一個宛で四個、合計二七個によつて一〇〇ルクスの照度が得られた。更に之が上方にはネオン管燈を取り付け文字通り錦上花を添ふるの觀がある。

**三、交通制御** 昨年一月の本欄に於て既に述べた如く、警視廳が昭和五年九月原則として色彩信號を以て文字信號に代へたことは、

今其照明設計の概要を見るに、照明面積は各面約九〇〇平方メートルし、〇〇〇ワットの投光器五六個即ち五六キロの電力を以て約一〇〇ルクスの照度を得んとするもので、投光器は光柱の開き三三度、光柱光束八、七二〇ルーメンと稱せられる。昨年十一月試験的に行はれた場合には、投光器四八個を用ひ正面及び斜面の三方より照明し、第三三圖の如き照明效果を得た。

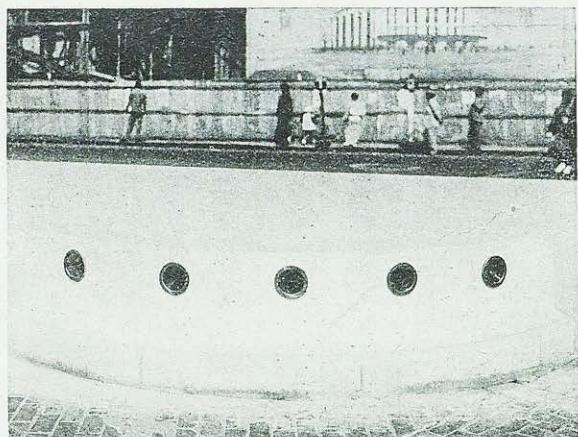
交通整理燈の發達にとつてエボツク・メーキングな出來事であつた。

即ち之を動機として交通整理燈の設置せらるゝもの昭和六年に於て東京市内一五個所、京都市内二〇個所、大阪市内二個所の多きに及んだ。之に使用する電球は一般に一〇〇ワットであつて、相當遠方よりも信號を明視し得る。又東京市に於ける施設では銀座、京橋方面にラケット式、神田下谷方面に中央式が用ひられて居るが、京都大阪では一般にラケット式が採用されて居る。

此外東京市に於ては安全地帯の防壁電燈設備を困難とする所にロード・サイン約四〇〇個を施設し、何等光源の設けなく自動車又は自轉車等の前照燈よりの投射光を利用して、前途に障礙物の存在を知らしめ危険防

止の實をあけて居る。配線に多額の費用を要する山間の道路等には特に適當せるものといひ得る。

例の一のロード・サイン



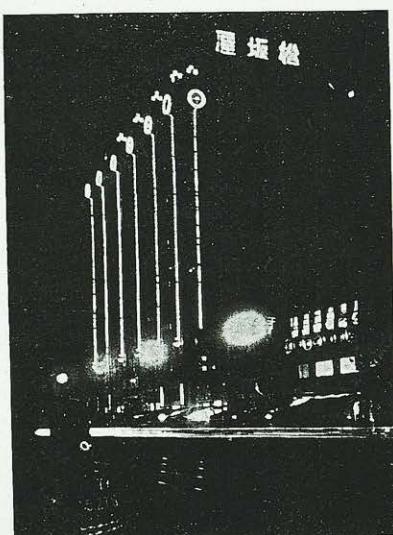
第34圖

尙東京市には新宿通りに安全地帶標識燈が設けられたことも特記に値す。

#### 四、街路照明 昭和六年六月六日より三日間東京市に於ては交通

協會、照明學會其他十二團體の聯合主催の下に東京市道路祭が行はれた。其目的とする所は帝都道路鋪裝の完成、道路愛護思想の啓發、路上工作物整理による都市美の維持等であるが、其中に街路照明の完備も包含されて居ることは推察に難くない。此道路祭に當つて昭和通り街路照明は既設の一四二基五〇〇ワットを特に一、五〇〇ワット電球に變更することを照明學會の提案により實行し高燭街路照明の實例を示した。

**五、裝飾照明** 百貨店其他の大商店が其建物前面に電球裝飾を行ふことが流行し始めたことに就ては、昭和五年の進歩述べた際に言及した所であるが、其勢ひは昭和六年に至つて更に助長せられ、百貨店に於ては東京銀座の松坂屋、日本橋三越本店等に其例を見、東京淺草の活動寫眞街にも其方式を採用せるものが頗る多かつた。松坂屋の電球裝飾は長さ三〇米の垂直ボーダー八條の上部に環狀



第35圖

松坂屋の電球裝飾

の裝飾を附し環の中央にはネオン管を配し、環をなす電球は其周圍

を廻轉して居るかの如く點滅させる。電球は内面著色電球二、三〇〇個を用ひ、ボーダー一條に對し一八〇個が取附けられてある。

**六、スポーツ照明** 夜間のスポーツは從來はテニスコートの照明等に局限せられて居たが、一昨年來ゴルフ・リンクの照明、ブル

の照明等が次第に實現を見、今や進んで神宮球場の照明も計畫せら

るゝに至つた。

之が完備せられ  
た暁には競技者

にとつて極めて  
便利なるのみな

らず、一般觀衆  
にとつても好都  
合となることは

勿論であつて、  
米國の實例によ  
れば夜間の方が  
入場者數に於て  
遙かに多く晝間

第36圖 照明裝飾の本店越東京本店



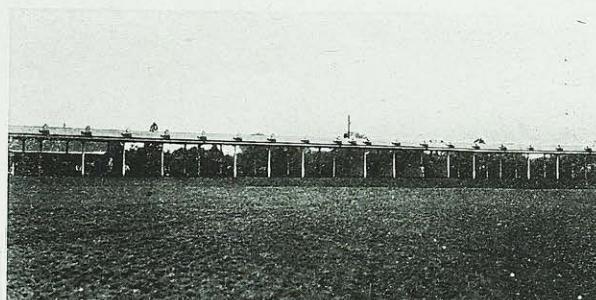
充分に期待し得る。

小型ゴルフ場は近頃更に増加し何れも照明施設を有する。其一例として東京大門のトムサム・ゴルフ場は二七ホールに對して一〇〇

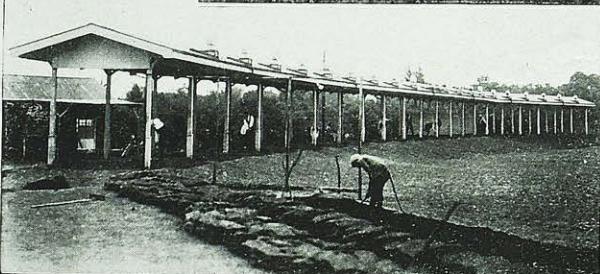
〇ワット一九個、五〇〇ワット二〇個合計二九キロワットの電力を使用してゐる。又相當大きなゴルフ練習場として東京近郊に於ては

ものは、幅六米長さ三〇〇米の廣さに十數臺の投光器を施設し以て夜間の練習を可能ならしめて居る。大ゴルフ場

カゴ西ウイルトメット・ゴルフ場には一



第37圖 照明のゴルフ場



等々のゴルフ場

五倍に達し、これが照明は單に經濟的方面のみより見るも不利益を招くことはないとのことである。今や電球界に於ては二キロ、三キロ、五キロ或は一〇キロの如き大容量電球の製作可能となり、如何なる照度も必要に従つてあたへられるから、スポーツ照明の普及は

入場者數の二一  
照明の尤なる米國シ  
カゴ西ウイルトメット・ゴルフ場には一

〇キロ電球一二四個  
を取附け、晝間より却つて見易いとの好評を得て居る由である。

## 五 屋 内 照 明

一、商店照明 經済界の不況を最も深刻に表現せられたものは商業取引であつて、従つて之に附隨する商店照明が此一年間大いなる飛躍を示し得なかつたことは事實であるが、一面より考へると斯かる不況時にこそ積極的に照明改善を行ひ、これによつて大いに需要を喚起すべきがより效果的なるべく、社團法人照明學會知識普及委員會が商業美術家協會と共に主催の下に、東京に於て景氣招來商店照明座談會を數次に亘つて開催したことは、誠に機宜に適せるものといふべきであらう。

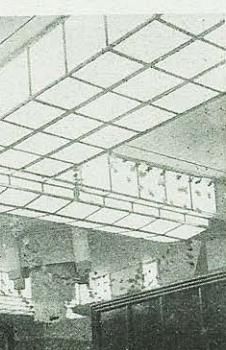
本座談會は二月十九日より四月十七日に亘つて左記十四ヶ所に於て行はれ、相當效果を收めたことは慶賀に堪えない。左記括弧内の数字は出席者の概数である。

濱谷町(四〇名) 下谷龍泉寺町(五〇名) 大崎町五反田(五〇名) 銀座(四〇名) 上野廣小路(四〇名) 浅草雷門(四〇名) 神田小川町(五〇名) 神田神保町(五〇名) 新宿(五〇名) 四谷塩町(五〇名) 本郷(六〇名) 早稻田(五〇名) 芝神明町(五〇名) 本所(五〇名)

商店照明座談會は地方に於ても行はれ、例へば六月五日盛岡商工會議所及び照明學會共同主催の下に盛岡市役所に於て行はれたものには市長外五〇名の出席を見、特に同日座談會直前の講演會には同市長、商工課長、商品館長及び市内商店主多數の來聽を見たことは商店照明の重要性認識の一證左ともいふべきであらう。

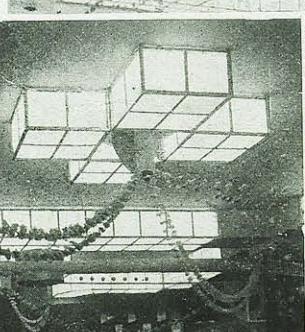
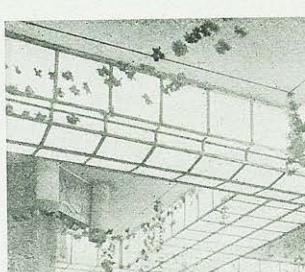
二、建築化照明 建築と照明との融合は或は建築照明兩技術者の圓滑なる協調の重要視せらるゝと共に次第に其度を高め、今や所謂

建築化照明なる一様式を生むに至つた。これは歐洲大陸地方に最も多く行はれて居るものであるが、我國にも漸次其例を見る様になつた。

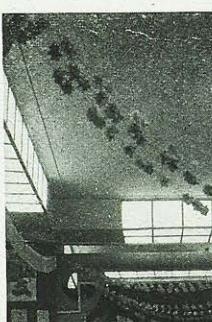


尚近頃建築化照明施設に適當な建築化照明なる一様式を生むに至つた。これは歐洲大陸地方に最も多く行はれて居るものであるが、我國にも漸次其例を見る様になつた。

たゞ此照明は從來の諸方式の如く建築の附帶工事ではなく、直ちに建築の實體に關係するものであるから、新築或は大改築の場合でなければ、これを實施し得ないため急激な流行は一寸期待出来難い。



第一圖 照明化建築の店舗賣場

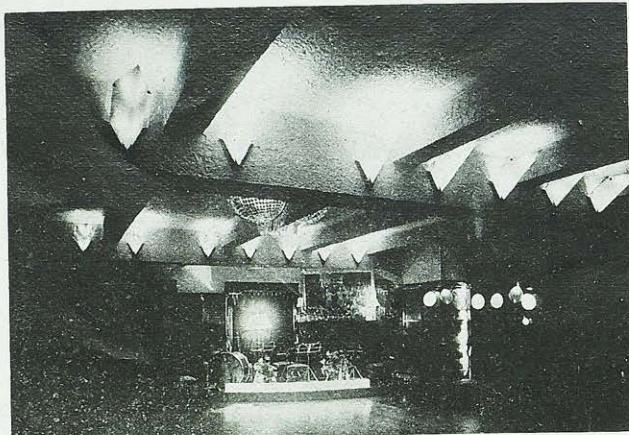


な乳色硝子が發表され、透過率の良好なると電球の外部より見えぬこと、に於て在來のものに優つて居る。

## 三、カフエー、ダンス・ホールの照明

照明設計の最も大膽な試

輸入せらるゝや直ちにカフェーに應用せられ  
さきに東京銀座のカフェー銀座會館あり續いて  
同地にカフェー赤玉別館に此企てがあつた  
が、保安上の取締規則其他の關係より十分な  
實現を見るることは出來なかつた様である。第  
四一圖はマツダ照明學校に施設せられたコロ  
ラマ照明であつて、此照明の目的たる隠し照  
明によつて種々な色の光と影とによつて壁及  
び天井に模様を書き、或氣分を出し或は必要



第39圖 ダンスホールの照明

レ・パルナスのホールの照明

みはカフェー  
或はダンス・  
ホール等に多く之を見るこ  
が出来る。

一昨年來米  
國に現はれた  
所謂コロラマ  
照明は我邦に

尙マツダ照明學  
校のコロラマ照明  
の調光には我國最  
初の試みたるサイ  
ラトロン調光を探



練習室の照明

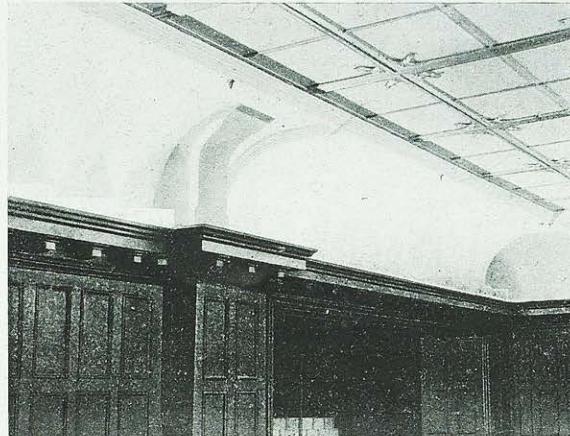
用した。これは從來の抵抗による調光の如く熱  
損失がなく、電力が經濟であるのみならず、場  
所を大きくとらぬ點に於て最も便利とされ、同  
所の調光装置も小箱内に納められホールの一隅  
に置かれてある。

**四、工場照明** 生産工業に於ける照明の重要な性は今や一般の認識する所となつた。其一例として昭和六年七月一日より一週間施行された全國工場安全週間に當つて、大阪市電氣局が行つ



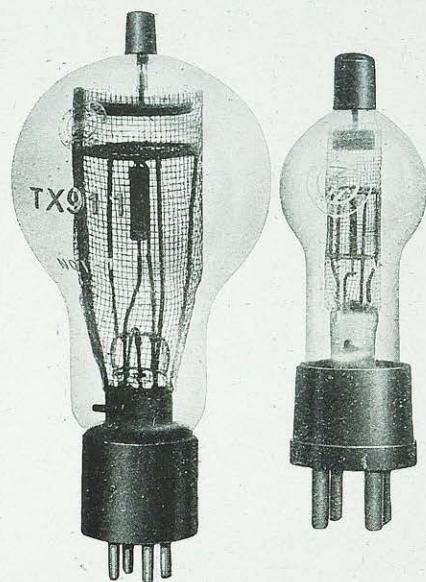
レ・パルナスのロビーの照明

た工場照明改善運動をあける。同局はこれを機会に關係各工場の照明設備を大いに改善し模範工場たらしむると共に講演會、座談會或は實演等あらゆる方法によつて其重要性



第 41 圖

マツダ照明學校のコロラマ照明



第 40 圖

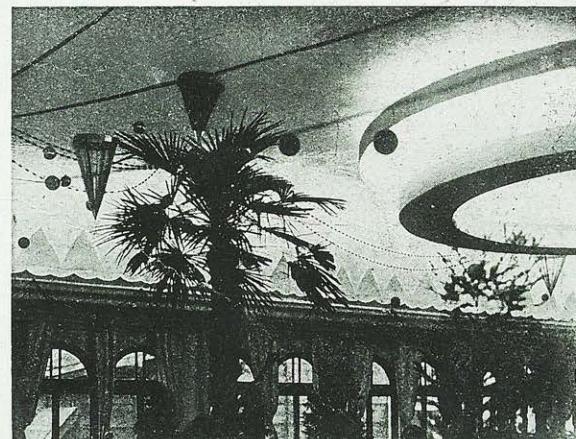
サイラント

を普及せしめ其改善を促し、更に同週間には電氣普及館に於て工場照明設計の相談に應じたのである。  
又同様なる試みとして東京電氣會社照明課は、去る十月大東京市内主要工場主約一〇〇名の參集を得て、工場照明改善につき懇談する所があつた。

工業の泰驥振はざりし昭和六年に於て既に工場照明改善の氣運のあつたことは、今後此方面の發展期して待つべきものであるを知るであらう。

### 五、撮影所

照明撮影所の照明が白熱電球化せられ弧燈は今や吉物視されんと



第 42 圖

コロラマ照明別玉館

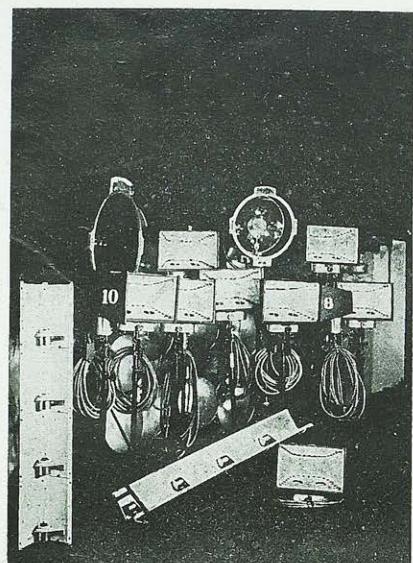
して居ることは最近の著しい傾向である。汎色フィルムの完成により我國に於ては松竹キネマ、日本活動寫真兩會社を始め各撮影所殆ど全部電球を使用することとなつた。従つて各種の器具が發達し特に一、〇〇〇ワット二燈用キノライト・サイド或は一、〇〇〇ワット一燈のキノライト・トツプが多く用ひられ、前者は單平面に排列された織條を有

する電球によつて側面より照明し、後者は天井より吊下けて下方を照らすに使用せられる。此外キノライト・ストリップと稱する桶型反射面を有する六〇〇ワット四個用器具も屢々用ひられる。

然るに局部照明器具は上記の全般照明器具の如く普及せずに放任せられて居たが、松竹キネマ蒲田撮影所が先づ之を使用するに及んで、所謂サンスボット器具の需要漸次多きを加へた。これは反射鏡の直徑により一二吋、一八吋、二十四吋の三種に區別され使用電球も一キロより一〇キロ迄用ひられる。松竹キネマは『怪盗X團』なる映畫撮影に當つて是等器具合計五四臺、一〇〇キロワットの電力を使用したといふ。今後の發達誠に多望といふべきである。

### 六、真空管の應用

光電管が測光に應用せらるゝことは周知の事實であつて、東京電氣會社は現在電球の測光に當時之を使用し良好の成績をあげて居るのみならず、他の研究所又は試驗所に於ても之を使用しつゝある所或は使用せんとして居る所は少くないから、今

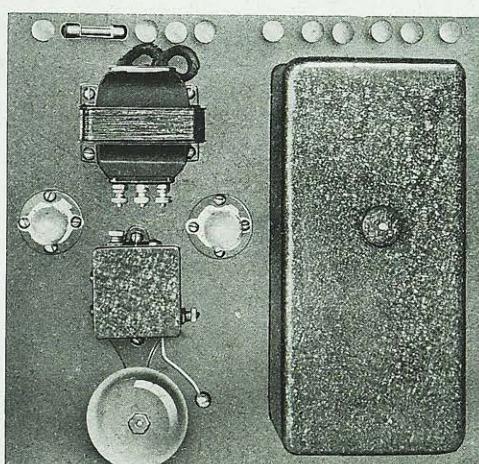


43. 圖

ノライト各種の器具

等後の通常の測光には漸次光電管使用に推移するものと考へられる。其他學校、工場或は街路等の照明制御に、又交通制御に其照明方面に對する應用は限りなく廣い。

發聲映畫の發達は其間に光電管の進歩が重要な役割を演じつゝあることは周知の所である。昭和六年には松竹キネマ會社はトーキー映畫『マダムと女房』を發表して好評を得、年末更に『若き日の感激』を演出して我國トーキー界の前途に光明をあたへた。今後映畫界が發聲映畫によつて漸次置換へらるゝと共に、光電管の使命は益々重きを加へるであらう。



44. 裝置の完成し、

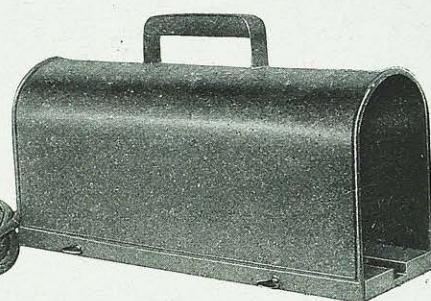
自働警報装置に光電管を利用したものが我が國に於て第一回のセシウムオートレーランの組合せ

に赤外線濾光板を通過せる赤外線をあて、訪客其他が赤外線を遮断することによつてブレーント電流を増加せしめ繼電器を動作させると様になつて居る。所謂オートレーラン装置も同一原理による自働開閉装置であつて、既に我國に於て製作せられて居る。

四極真空管サイラトロンがコロラマ照明の調光に應用せられることは既に述べた。米国イリノイ州の某社は之によつて投光器約二〇〇個を用ひ色彩溢光照明を自社社屋に試み、其白塔の側壁に絶えず變化し、ある彩光を投げ、數糸の遠方よりも眺められ十分な廣告效果を收めた。

其他直接に照明とは關係ないが真空管を應用した樂器セレミンが我國にも紹介され、

電氣の應用分野が限りなく擴大されつゝあることを示した。



オーダラム 装置の受光器



オーダラム 器

問題は、簡単に之を豫測することは出来ないが、少くとも近き将来には次の諸項は之が實現を期待してよいと思ふ。

## 六 學 界 の 狀 況

昭和六年初頭社團法人照明學會は會長山本忠興氏の満期退任に伴ひ、東京帝國大學教授鯨井恒太郎氏を其後任に迎へ、我國照明工學界の最前線に在つて照明工學の理論並に實際に關する研究調査並に照明知識の普及に努力しつゝある。同學會は又六年秋九月英國に開催せられた國際照明會議に參加し、今村、合田、田治木、星合、小林、仁村、俟賀の七代表委員を送り、更に多數の論文及び報告書を提出し會議の目的達成のため相當力を致した。特に活動寫真照明に就ては日本が理事國たる關係上、各國報告を整理し同委員會に於て

等の全般又は局部照明に之が利用され、健康と照明との兩者を同時に得られる照明方式が行はれるであらう。更に米國に既に現はれた窓のない家も實現を見る日があるべく、米國の例は工場のみならず百貨店としても好成績を得て居ることが報ぜられて居る。

スポーツ照明は昭和七年の我國照明界を飾るトピックたるべく、米國の諸例は何れも經濟的にも有利なることを示して居るから、若し球場照明が一ヶ所にても實現されんか、忽ち全國的流行を見るに至るものと考へられる。米國デトロイト大學のデイナン球場は電力三三〇キロワットを以て五〇〇ルクスの照度を得、桑港球場も亦三一〇キロワットに上の取付電力を有する。

夜間航空の隆盛に伴ひ航空標示燈並に航空港の照明が大いに研究發達を見ると思はれる。これは社團法人照明學會が目下航空照明委員會を設けて研究調査中であるから、その完成によつて照明應用の新方面が茲にも見出されるであらう。

日本代表が幹事として議事進行に當つた由である。

電氣、照明、電信電話三學會の聯合大會は四月三日—五日の三日間名古屋市に於て開催せられ、特に宿題講演として『電氣サイン』に就て多數の討論が行はれた。本年は東京市に於て陽春四月日本工學會大會の部會として同様の形式のものが開催されることになつて居るが、其討論題目としては『光電效果と其應用』が採用せられて居る。又本年は巴里に於て萬國電氣會議も開催せらるゝことになつて居るから、これに對しても照明に關する論文が提出されるのみでなく、遞信省電氣試驗所技師堀岡正家氏等出席される筈である。

マサチユセツツ工科大學名譽教授ケネリー博士が十一月我國電氣學會の招請に應じて來朝、各地に於て其該博なる蘊蓄を披露せられたことは我學界の幸福といはなければならぬ。

從來家庭電化の普及に對し有力なる機關として全國的活動をなし居た社團法人家庭電氣普及會は、今や其目的を擴充し其名稱も電氣普及會と改めた。同會は故伯爵後藤新平氏等の創立にかかるもので現に伯爵清浦奎吾氏を會長とし、其機關雜誌『家庭の電氣』には毎號照明に關する記事を見ぬことはない程で、我國照明界の發展に對し重要な役割を演じて居る。近くは去る十二月二十一日より二十六日迄一週間全國的に家庭電氣週間の催しを試み、ラヂオ放送其他の普及宣傳を行ふ所があつた。

照明知識の普及機關として特に社團法人照明學會内に設けられた照明知識普及委員會は展覽會、座談會、講演會或は出版物等に大々實務委員、特別委員を設けて活動して居るが、特に同委員會の編纂にかかる『古燈器大觀』は古今稀に見る權威的出版であつて、同學

會よりの獻上に對し畏くも 天皇、皇后兩陛下、皇太后陛下、秩父宮、澄宮兩殿下には御嘉納あらせられたと承つて居る。  
照明普及機關としての照明學校は益々利用せられ、マツダ照明學校に就て其入場者統計を見ると、次の如く略一〇、〇〇〇名の多きに達して居る。

第五表 昭和六年中のマツダ照明學校參觀者

月	人數
1月	539
2月	828
3月	1,018
4月	995
5月	1,275
6月	1,212
7月	904
8月	262
9月	500
10月	1,040
11月	1,100
12月	186
計	9,864

昭和六年に發表せられた主要な論文としては、山内、久野兩氏の『配光の十進分類法による燈器の分類』、門倉則之氏の『光電管理論と三極光電管の靜特性』、黒澤涼之助氏の『配光指數に關する考察』、山内二郎氏の『球面系の相互反射論』、淺田常三郎氏の『石英水銀燈の光度に就いて』及び『水銀燈の點火とその自動裝置に就いて』等があり、此外歐米各國の白熱タンクステン電球の標準仕様書が本城巖氏によつて紹介せられた。是等は何れも照明學會雜誌或は電氣學會雜誌に掲載せられたものであるが、それ以外の雜誌或は新聞等に多數の照明に關する論文が發表せられたことは勿論であつて、我邦照明工學界は益々其基礎を固め以て實際方面の指導的理論を完成しつゝある。

昭和六年十月十八日我照明界のみならず世界文明の大恩人たるトーマス・アルヴァ・エデソン翁は行年八十四を以て、米國ウエスト

オレンヂの自邸に長逝せられたことは吾人の一大痛恨事とする所である。翁が其生涯に於て得たる數千百の發明考案は、數百億圓に達する投資を擁する工業の基礎を造り、よつて以て今世紀の科學文明に未曾有の速度をあたへた。我學界は翁の功績を思ひ深く哀悼の意を表するため、電氣協會、照明學會外關係七團體の聯合主催の下に、子爵金子堅太郎氏を會長として、十一月二十七日東京日比谷公會堂に於てエヂソン追悼會を開催したことは、故人のため誠に當を得た方法であつた。

## 七 結 言

## 米國に於ける照明方式の變遷

建築家も裝飾家も裝飾に電燈照明を用ひぬ人はないやうになつた。そして以前は電燈照明の必要性は大都市に限られて居つたが、最近では小都會でも重要視されるに至つた。

電燈照明の初期に於ては、焰や蠟燭や石油燈に因んだ古典趣味の意匠の器具が用ひられて居つたが、次第に意匠の簡単な照明本位のものが用ひられ出した。そして側壁に取附けた燈具からの照明が、普通の吊下式照明器具を用ひた場合より優れて居ることが明かとなつたので、半間接照明と云ふ形式が表れて來た。數年前まで建物が出來上つてから照明器具を選ぶやうな傾向があつたが、調和を缺くものが多いと云ふ結果からして、照明は建築の一部分ではないと

云ふことに氣づいて、建築化照明と名づけられる一方式が表れるに至つた。この方式では照明器具を取附ける前に適當な準備が必要である。

即ち建築設計をすると同時に照明設計をもしなければならない。

最近特に照明の價値が重んぜられ、モダーンな建築であれば外廊を見せると云ふこと、又公衆も其の美しさを見んとの欲求からして、必ず照明が附けられて居る。或る場合には必要以上の照明さへ施されて居る例をよく見かける。

造船方面に於ても船内裝飾照明は善美を盡す

ことが國際的に競争の状態であり、裝飾照明が重要視されるに至つたことは注目に値する。

商店照明の傾向は間接照明の採用であるが、

以上を以て昭和六年度に於ける照明界の進歩について概略述べたと信ずる。數年來引續いての經濟界不況の爲め一般的進歩としては誠に遅々たるを免れなかつたが、特殊の方面に對しては相當目覺しい躍進を見た様に思はれる。

即ち新しき發明新しき研究は前人未知の新天地を開拓し、將來に對して最も輝かしき希望を殘して此一年を終つた。來らん昭和七年度に於ては一陽來復、前年度に於て緒に就きたる新方面の開發が、必ず潑刺たる展開を見せるであらうと信ずる。

其の内で半間接も間接も何れも用ひられて居る。此の方式は屋内の照明としては最上のものであるが、グローブを用ふるより維持費を多く要するので、經濟上の觀點から急速には採用され難いのではなからうか。

最近最も注目に値するのは、晝光の代用としての人工照明の問題である。其の結果として窓のない建築物が米國に於て出現したのである。例へばマサチウセツツ州のフィツバーアクに於けるシモンス鋸鋼鐵會社の如きは、水銀燈と白熱電燈とを併用し、水銀燈には紫外線の透過硝子のものさへ用ひて居る。他の一例はワシントン市に於けるバーカー・ブリゲット百貨店の全部の人工照明である。そして窓を全部なくしたた

# 内面半艶消電球採用に依る增收策

—マツダ H.C.H.B 電球使用の増燭勧誘商戦に就て—

東邦電力株式會社 吉川康太郎

## 新報

緒言  
鳥兎勿々、新年初頭に當り我々は更に緊張を新たにいたしましたて、昭和七年度計畫のロードビルに相協力し共存共榮の實を擧ぐる様、茲に誓ひたいのであります。

照明改善運動のうちで直接效果のあるものは商戦(Campaign)であります、我國の現状を見まするに、各電燈會社が獨自の立場に於て、思ひ／＼に行つて居るのであります。これに直接協力して居るのは、電球製造者のみと謂ひ得る狀態であります。隨て他社の行ひました商戦の戰術とか實蹟とかは殆んど不明でありますから、他社の長所を自社の商戦に取り入れることが出來ないのであります。これを歐洲諸國の現状に照らし合せて見ますと、米國ほど進取的でないと聞かされて居た歐洲に於ては、尙我國よりも更に進歩的であり協力的であります。歐洲に於ては電氣協會、電氣普及會などが指導者となつて、工事者組合、電球製造者組合と協力して、全國的商戦(National Campaign)を年中行事として行つて居るのであります。

一九二八年九月米國サラナックに於て催された萬國照明會議の議事録を見ますと、此會議がある十日ほど前に、加奈陀のトロント市

で開かれた第二十二回照明學會總會で、英國のブッシュ氏が歐洲における照明改善運動の近況を報告して居ります。これに依りますと、歐洲各國に於ては運動の一分科として、全國的商戦を毎年行つて居るのであります。飾窓照明の商戦は、獨逸に於て一九二六年全國的に行ひ、裝飾家組合、廣告家組合、電球製造者組合及び電氣協會の各團體が協力して、先づ第一年に於て大成功を修めた結果、第二年目からは大規模に商戦を繼續するだけの資金を容易に儲けたとのことであります。これと同じ様に瑞典、諾威、フキンラン、丁秣、瑞西、チエッコスローバキヤ、伊太利、英國でも夫々商戦を行つて居りまして、これらの國々は他國の長所を採用して居ります。

住宅照明の商戦は獨逸、英國で盛んに行はれて居りまして、獨逸に於ては住宅電燈の増加をはかるために、聯合會が組織されて居りまして、全國的に統一ある奉仕、商戦が行はれて居ります。英國に於ては電氣普及會と電球製造者組合が聯合して商戦を行つて居ります。實際の活動を行ふため、七つの地方委員會と百二十三の支部會が創立されて居ります。最近白耳義に於ても、同様な商戦を行つて居ります。

我國に於ては電氣協會、電氣普及會が需要開發運動に活動して居

## 新報

## ダツ

## マ

りますが、現在の主なる事業は宣傳、證明、調査研究、雑誌、教育、出版等であります。僅かに商戦に協力する様に見らるゝのは、電氣普及會がレッドシールプラン式の全國的仕様書を作成した事であります。これとて各會社の通信商戦（Mail Campaign）を補導する所の宣傳、證明の域を出て居ない様であります。我國に於ても將來は、これら有力なる協會が全國的商戦に協力するため、實際的活動の出來得る商戦委員會の如きものを組織し、統制ある商戦に立て直すの要ありと考へられるのであります。これを年頭の辭といたしまして、次の本題に入ることにいたします。

## 不況時代の商戦

我々のサービスを賣込む先は、住宅商店を第一として居ります。

近時不景氣の深刻化につれて、工業方面の大量的電氣需要の衰退を見るにつけても、住宅商店等の小口需要のロードビルは、我々電燈會社の使命であります。住宅、商店の照明改善には絶えず努力を怠らないのであります。不景氣の影響で各地に料金値下問題或は料金不拂同盟等が起り、會社の従事員は極度に萎縮して居る際は、勸誘商戦などは效果がないばかりでなく、却て需要を刺戟すること、なつて、會社に不利を招くものであると言ふ様な、商戦でありまして、進取的な電燈會社は、絶へず商戦を行つて居る模様であります。未だ失敗した話しあは聞かないであります。私の會社では、不況時の勸誘には充分考慮いたしまして、平時よりも其方法を變へて商戦を行つて居りますが、毎年成功を續けて居るのであ

ります。

不況時の商戦に最も注意すべき點は二つの點であると考へます。一つは建設費をかけないこと、二つには需要家の感情を柔らけるに努めることであります。昨秋の電燈勸誘商戦は此方針を實驗したのであります。先づ建設費の問題については、定額燈は、燭力向上のみに止め、新設増設の勸誘は全然行はなかつたのであります。從量燈需要家には電球の特價販賣のみを行ひました。次に需要家の感情問題については、勸誘員は勸誘のみに專念せず、訪問に際しては器具の破損取替へ、掃除、不點箇所の修繕等、故障の有無其他需用家の要望を一々伺ひ、専ら奉仕的巡回をなしつゝ、勸誘を行つたのであります。この奉仕した件數も相當多數に上つて居ります。

## マツダ半艶電球の採用

勸誘商戦には常に目新しい景物が有效であることは一般に認める所であります。我社の昨秋の商戦には新發賣のマツダ内面半艶電球を採用いたしまして、この電球のみを勸誘に使用したのであります。幸にしてこの電球の持つ良質が直に需用家の趣向に投じたのであります。殊が上にも成績は向上して、僅か二週間位の商戦期間に八八、五八四燈を燭變し、一、三七七、五七四燭光の増加を見たのであります。勿論この好成績を獲得した原因は他の種々な條件にも依りますが、使用電球が需用家の慾求に合致したこと最も重要な要件であつたのであります。

マツダ半艶電球の特徴に就ては、社内従事員は勿論需用家に對しても充分徹底する様努めたのであります。支店が作成いたしました社内用及び需用家用の宣傳資料を、参考までに左に載せることに

いたします。

## 勧誘成績の概略

左に勧誘成績の概略を報道して、結語に變へること、いたしました。尙勧誘期間は昨年十一月上旬から下旬まで、約十七日間の間に全支店一齊に行つたのであります。

### 社内従事員教育用 H.C・H.Bの特徴に就て

電球の良いとか光質のよいとか言ふのは、概してフキラメントの輝度の高いことに歸着する。(中間略)夜間新聞を讀んだり物を縫つたりする時の、恰度よいあかるさの面の輝きを大約二ミリランバートとすると、瓦斯入電球のフキラメントは二十二萬倍に當り、眞空タンゲステン電球でも八萬倍となる。電球が良くなればなるほど、艶消の必要を生じて来る譯である。この點に於て内面艶消電球の輝度は一〇ランバート以下つて居るから感じもよく照明上にも良い。

從來の艶消は外顔艶消であつた。外顔艶消の一番の缺點は汚れ易いのと、汚れた時の掃除が困難である事であつたが、何より一番困るのは外顔艶消であるがため、光りの透過が悪くなるので、これが何うしても定額需用家に、積極的に推められなかつた缺點であつた。もう一つは眞空タンゲステン電球の様なフキラメントの繕線方法では横だけ明るくて下が暗い缺點を持つて居つたが、之が改められてHの様な一つの點に近い光源、コイルドフキラメントに成功し、瓦斯入電球の様に配光の具合が良くなつて電球の直下も明るくなつたのである。(以下略す)

### 對需用家宣傳用

#### 新發賣内面半艶瓦斯入電球H.Cに就て

マツダ瓦斯入電球の特長……光力の豊富なこと、光の色の白いこと、直下の方向に光力の強いこと、能率の良いこと……其儘、内面を半艶消にしてぎら／＼を除き、外顔艶消の様に硝子面によがれが付く事少なくし、且つよごれても拭へば容易く取れる様にしたのが、此の新發賣内面半艶マツダ瓦斯入電球であります。

### (一) 燭力を向上せる燈數

使用電球内譯	H.C	八八、五八四燈
B	五三、四八七個	三五、〇九五個

二個

一、三七七、五七四燭光

内譯  
舊燭數一、六六七、三六八燭光  
新燭數二、〇四四、九四二燭光  
(成績率五・五燭光  
目標數六六、九八燭に對し約二吾バーセント)

### (二) 増加せる燭數

一ヶ年增收額 二四七、一五一圓餘

(歩止り八〇バーセントの場合約二十萬圓となる)

### (四) 直接支出額(勧誘料、景品代其他を含む)

二九、四一八圓餘

(一燭當り勧誘費 二錢一厘三毛餘)

### 從量之部

從量燈需用家に豫備の電球を持たせる事は、結局消費量を増すことになります。この意味に於て定額増燭勧誘と併行して、從

量燈需用家にH.B、H.C電球を特賣したのであります。

### 電球特賣數

内譯  
(H.C二四、六七四個  
H.B 一四八個  
二四、八二二個)

## 新 春 詠 (一)

高遠電燈株式會社  
締役

豊島

晃

美篤苅る信濃の春の朝にしてこの美しき空を見るかな  
 紅ら引く朝日照れば駒ヶ嶺に豊旗雲のたなびける見ゆ  
 下駄棚にすらりと竝ぶ生徒らの小さき下駄の皆新らたなり  
 式を待つ時久しけば教室の照る日の方にふみよみてをり(以上元旦詠)  
 美しき雪いちめんの夜の道何も思はずふみて我が來し  
 さやるもの一つもあらぬ雪の道踏むにくづるゝ音のよろしき  
 伊那谷に降りける雪の見の限り誠眞白く遮るものなし  
 軒燈に照らし出されし道の雪泥にまみれて凍てにけるかも  
 月光の斜にさせば凍てし雪青と紅とにあやしや光る  
 月よみの光りさやかに照れる道我れ一人ゆくをさみしみにけり  
 天そゝる南アルプス正目にし我が見てるたり悔なき思ひに  
 白雲の湧き來と見るに天霧らしだちまちあらず南アルプス  
 西駒の峯になづさふ白雲を見ほれてをれば雲また來たる  
 たゝなはる雪の群山悉く靜けき春の朝日に光る  
 雪の山日に光りつゝ青空に浸るがに見ゆ山の高きに(雪に埋れて)



# マツダ電球による 懸賞寫眞入選發表

## 新報

## マツダ

本誌昨年八月號で懸賞募集を致しましたマツダ電球による懸賞寫眞は、吾が寫眞界に劃時代的の効果を齎らすものと期待されて居りましたが、去る拾壹月拾五日に締切り、同廿八日東京有樂町電氣俱樂部に於て、鎌田、福原、結城、清水、關の五審査員の熱心な審査の結果、入選が発表されました。尙當日東京電氣よりは柏木、佐藤兩氏、小西六本店の杉浦氏、淺沼商會の野崎氏も出席されました。

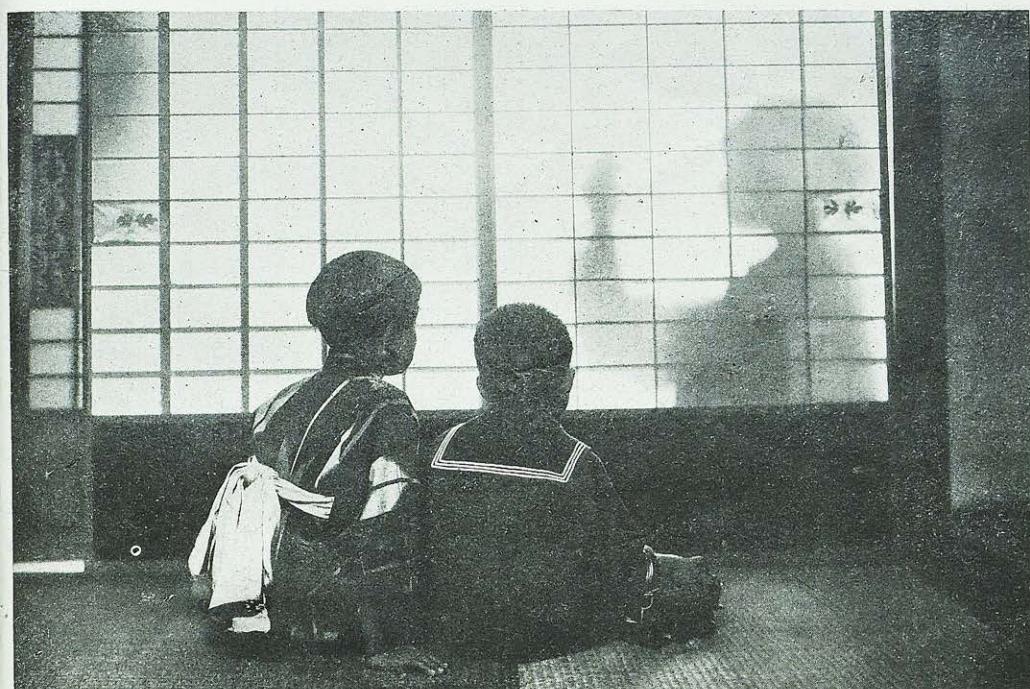
當選寫眞のうち一等、二等、三等は本誌に掲載してありますが、之れを見られると、家庭内での夜間撮影が如何に簡単容易に行はれるかと伺はれます。又手術室の如きマグネシユーム・フラッシュでは到底撮影出来ぬやうな場所も頗る工合よく寫されて居ります。これによつて見ても、如何にマツダ電球が便利であり、優秀であるかを物語つて居る見ることが出来ます。

應募作品中入選されました寄稿家の住所尊名並に作品の題名は次の如くであります。

一等賞 一名 隣子に撮る影法師 東京府下大井町三、五七七  
遠田 賴氏

お手玉	京都市下京區寺町通り高辻北入	二等賞 一名 放送室にて 名古屋市西區名古屋放送局内
三等賞	踊る少女と三人の手拍子 神戸市元町一ノ四二	三等賞 二名 錦 松本秀一氏
手術室	東京市京橋區銀座八ノ一有賀方	手術室 武田忠則氏
人形持てる子供	上田市海の町	人形持てる子供 田中子供
夜の子供部屋	京都巣丸仙寺下河野英方	夜の子供部屋 關口和夫氏
出生	神戸市林田區宮川町四ノ一八	出生 米井邦祐氏
五等賞	並木綠	五等賞 三名 佐藤氏
少女	東京府下大森町山王下二、八五〇	少女 並木綠
風船	東京市外日暮町下日暮九〇	風船 郎氏
佳作	山中カヘイ氏	佳作 矢吹美夫氏
神前合奏	東京市外日暮町下日暮九〇	神前合奏 勉強
静物	内堀綠	静物 ピアノ
太田忠雄氏	阿部賢	太田忠雄氏
太田忠雄氏	兒氏	太田忠雄氏
静卷	ガソリン、ステーション	静卷 東京市外日本町四ツ木一
葉柳影氏	北川美	葉柳影氏 北村直四郎氏
横濱市中區伊勢崎町野澤屋内	平林保	横濱市中區伊勢崎町野澤屋内 平林保
太田忠雄氏	集合	太田忠雄氏 集合
太田忠雄氏	針仕事	太田忠雄氏 針仕事
曾根トシヲ氏	伊藤辰	曾根トシヲ氏 伊藤辰
阿佐市太郎氏	高木靜園	阿佐市太郎氏 高木靜園
阿佐市太郎氏	水谷	阿佐市太郎氏 水谷

マツダ新報



マツダ閃光電球使用懸賞寫眞 一等入選作品

障子に撮る影法師

遠田禎氏作

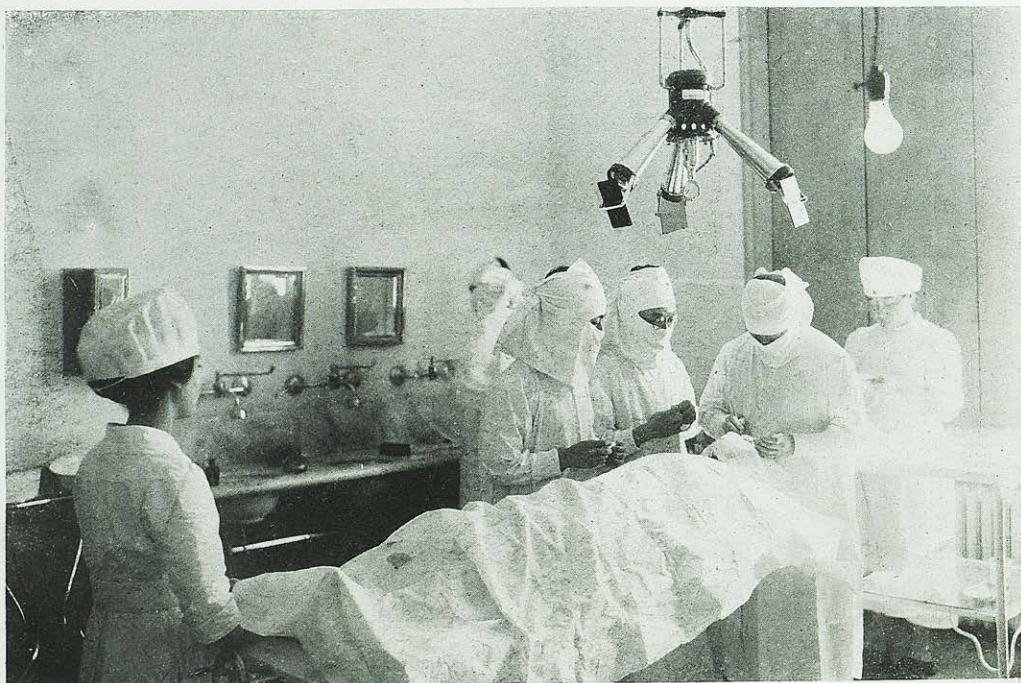


マツダ閃光電球使用懸賞寫眞 二等入選作品

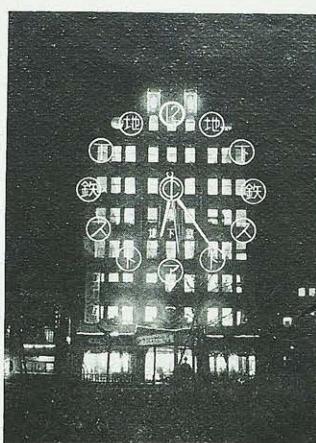
お手玉 堀雄二氏作



マツダ閃光電球使用懸賞寫眞 三等入選作品 踊る少女と三人の手拍子 武田忠則氏作



マツダ閃光電球使用懸賞寫眞 三等入選作品 手術室 米井章祐氏作



地下鐵の時計 大時計のオネオンサイン

昨年十二月一日から華々しく開店した地下鐵上野ストアの堂々たる八層樓。そのモダン

### 地下鐵上野ストアの大時計ネオンサイン

を誇る建物の前面全部を使つた大時計のネオンサインは、その大きさと複雑な構造で注目される。この時計は、直径六十六尺に及ぶ、各文字を囲む圓及び中央地下鐵マークは直徑八尺、一二の圓及び時計と分針とが青色、地下鐵マークは緑色、其他は全部赤色ネオン管を使用して居る。そして廿一尺に餘る長大な赤色の秒針が堂々と回轉して居るのを見ると思はず快哉を叫ばざるを得ない。上野驛に初めて出て來た地方客のみならず、刺戟に魔瘴した都會人でも、暫し足を止めて仰ぎ、その壯觀に三嘆する位である。

此大時計に使用したネオンサインは東京電氣の施工に成るものであるが、ネオン管のみの延長が七百五十尺に及ぶ。ネオンサインとしてだけでもその大を誇るに足るものである。因みに時計設計に關し地下鐵、澤村技師が『科學知識』に發表せられた記事を左に

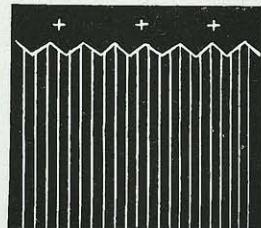
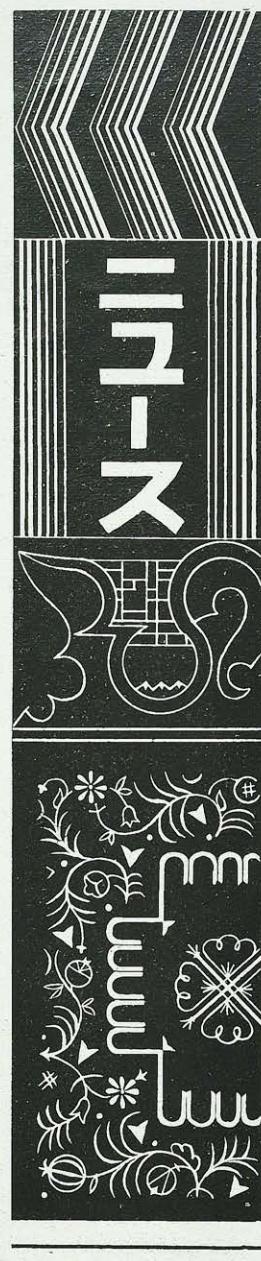
### 照明

に迄報道せられ、最早遍ねく人々に知られて居る事と思ふ。その大きさに於ては世界第一

時計の直徑六十六尺に及び、各文字を囲む圓及び中央地下鐵マークは直徑八尺、一二の圓及び時計と分針とが青色、地下鐵マークは緑色、其他は全部赤色ネオン管を使用して居る。そして廿一尺に餘る長大な赤色の秒針が堂々と回轉して居るのを見ると思はず快哉を叫ばざるを得ない。上野驛に初めて出て來た地方客のみならず、刺戟に魔瘴した都會人でも、暫し足を止めて仰ぎ、その壯觀に三嘆する位である。

此大時計に使用したネオンサインは東京電氣の施工に成るものであるが、ネオン管のみの延長が七百五十尺に及ぶ。ネオンサインとしてだけでもその大を誇るに足るものである。因みに時計設計に關し地下鐵、澤村技師が『科學知識』に發表せられた記事を左に

抜萃して置きたいと思ふ。





社獨創的方法により使用中にコシタクトの不良や、各部取附部分のルーズになるやうなことは絶対にない。

電氣的の見地からしても非常に安全なもので、絶縁試験の結果は新アラゲの兩端子間及び兩端子と絶縁された金屬部分との間に、交流一、五〇〇ヴァルトを加へて一分間以上も充分に耐へ、且つ其の間の絶縁抵抗は五〇〇ヴァルトのメガーにて一〇〇メガオーム以上もある。キヤップをボディーに完全に挿込んである。一二五ヴァルト六アンペアの交流を通じ、一定溫度に達した時の及び及ぼす挾みの溫度上昇は攝氏數度に過ぎない。

機械的にも丈夫であるが、殊に把持力の如きは一二五ヴァルト五アンペアの交流を通じ一分間一〇回の割合で連続開閉六、〇〇〇回に及び、器具の何れの部分にも支障のないのは勿論、其の場合に刃挾みの刃を持つする力は尙一斤以上もある。

かくの如く體裁と云ひ品質と言ひ、誠に優秀な製品であるが、時節柄値段の點については特に留意し、定價一個金十三錢と云ふ破格の廉價である。

## 小倉放送局開局式

北九州ラヂオファンに、その開局を待ちこがれてゐたJOSK小倉放送局は、豫定の如く十二月二十一日祝賀放送をかねて第一聲をよびかけた。續いて北九州各地の夕が放送されたが、放送機は吾社製のGRP-1三六型を

され、これが爲め波長の變動と混信をなすの虞があるので、此れを防止する爲めに水晶發信機を使用し、電力增幅管には水冷式真空管を使用し、出力の増大を圖ることになつて居る點は實に理想的である。

小倉放送局の開局に祝意を表すため、本社福岡出張所では自動車隊を組織して、小倉市内を廻り大宣傳を行つた。



小倉放送局開局祝賀の自動車隊

使用して居る。同放送機は吾社が設計製作したもので、各部分に至るまで殆んど總て吾社に於て製作した純國產品のみを以て組立ら

主なる團體參觀者  
遞信省柄瀬技師他  
大阪助成會員  
海軍水雷學校

二五  
二三

三九  
四三

## 照明學校

十一月中の參觀者  
十一月中の照明學校參觀者は、左記の如くであつた。



# ある日の酒

田中貢太郎

十一月二十九日は朝から晩春のやうな、静で暖な日であつた。私は朝から机に向つて大阪時事の小説を書いてゐたが、數日來の酒で

どうにも筆が動かない。しかし、原稿に餘裕がないので書かないわけにいかない。無理やりに重いペンを走らして一回終つたところで

坂本秋翠君が來た。そこでぶらぶら歩きながら、其の原稿を大森馬込の須藤宗方畫伯の許へとどけることにして家を出た。須藤さんは、私の原稿に挿画を書いてくれてる老畫家で、私の住んでる碑文谷からは一里あまりの里程があつた。

坂本君の他に清水君も加はつて、一行は三人であつた。家を出る時、例によつて酒を持つて往つた。もう十二時に近かつた。

私たちは二子玉川大井町線の東洗足驛の前を右に折れて、池上電車の線路の上に架かつた陸橋を渡つて往つた。野菜畑の中を斜に通り小林の人家の入口になつたところで路は三方に岐れてゐた。郊外の景趣に親しみを持つ私たちは、其の一ばん手前になつた泥濘のほけしい急峻な新開道を右におりて往つた。其處には櫟林があり、竹林

があり、水田があり、丘があつた。丘の麓には、棗駄師が植ゑた桟木畑があつて、そこには真紅な楓の葉があつた。

『いい處ですね、一ぱいやるのに、』

と清水君が云つた。

『さうだ、彼の草の上で、火を焚きながらやるといいね、』

私は前日須藤さんと清水君の三人で郊外を歩いた時、枯草を焚いて酒をあたためて飲んだ時のことを思ひだした。

『いい處だが、用事がすまんと、しようがない、』

私たちはいくつかの丘を越して往つた。野菜を洗ふ人、麥を踏む女。丘のはづでは朝鮮人であらう、數人の土工がトロッコで土を運んでゐた。それは其の丘をきりひらいて住宅地にするかたはら、其の下になつた水田を埋立てるところであつた。其の附近に縦横に通じた新聞道の傍には、投げ捨てられた馬鈴薯が青い莖を出してゐる、それといつしょに野菜の萎れかけた葉っぱや、里芋の莖を捨ててあるのを、二三人の朝鮮の女がひろつてゐた。

『内地へ來てる、朝鮮人は幸福だよ、』

私は朝鮮へ往つた時、朝鮮の郊外の路ぶちが崩れてしまつて、草らしい草のないのを見て、案内してくれた友人に聞くと、貧民が食料にするために掘るのだと云ふことを聞かされたことを思ひだした。

『君、朝鮮は路ぶちに草が生えとらんよ。』

一時すぎになつて須藤さんの家へ往つて原稿をとどけた私たちはそこから入新井を経て池上の本門寺へ行くことになつたが、腹が空いてゐるので、何處かで飯を喫はなければならない。それも杖頭を持つてゐるなら何處へでも往けるが、例によつて懐の淋しい私は、小さい茶店かおでん屋のやうな處で、持つてゐる酒を温めてもらつて、ちよつとしたものでも喫ふより他にしかたがなかつた。

『おい、おでん屋か、茶店があつたら入るぜよ、茶代位はあるから、』

と云つたところで、坂本君が、

『僕は、昨日月給をもらつたから、すこし持つてる、先生これで何處か、いい處へ入りませう、』

と云つて五圓札を出した。

『たまるか、持つちよるのう、それなら、ちくと方法があるぜよ、』

『よし、本門寺まで歩かう、彼處へ往きや、いい處がある、』

入新井の町から本門寺までは十四町あまりあつた。私たちは一度其の道を通つてゐるので、やはり前回のやうに本門寺の裏山からあが

つて往くことにしたが、しかし、裏山の方は道が判りにくいで、池上町の本通りに出やうと云ふことになり、松や杉の茂つた丘の傍を通つて、池上電車の線路の方へ曲つて往つた。そこは新に切り開いた路であつた。池上の町はづれになつた蘆原がすぐ眼の前に來た。私たちは其の蘆原を右に見て、左に本門寺つづきの丘に沿うた古い道を往つた。路傍の生垣に沿うて七十あまりの老翁が、小さい桶の中へ入れた里芋をごろごろと洗つてゐたが、其の老翁の禿げた頭には暖い冬の陽があつた。

本門寺の入口になつた旅館兼飲食店の離れのやうな一室へ通つたのは二時すぎであつた。其處は私たちが時をり夜來吟社の俳句會をやる家であつた。かつて夜來吟社の俳句會をやつて、その後で酒にしたところで、其の時ついてゐた鮎の魚軒を見て、銚子を持つて來たお嬢さんに、

『おいお嬢さん、此の魚軒はほんたうの魚かね、』

と云つてからかふと、

『なんですつて、』

と云つて眼の色をかへた。

『魚のやうにもあるが、こんな山奥には魚はあるまい、いつたい、これはなんの魚軒かね、』

と云つてまたからかふと、お嬢さんは火のやうになつて、

『白痴にするのも、いいかけんになさいよ、氣に入らなげや、よすがいいや、』

お嬢さんは持つて來た銚子をたたきつけるやうにして出て往つた。と、同行者の竹仔君が、『おいおいお嬢さん、冗談だよ、冗談だよ、お嬢さんが可愛いからつかからかつたのだよ。』

と云つたので一座は大笑ひになつたことがあつた。

私たちには本門寺の方へ散策に往つた時には、必ず其の家へ寄ることになつてゐた。

私たちには座につくと、すぐ持つて往つた酒の包を開き、肴を出した。魚は土佐から取りよせた沙魚で、酒は四合壺が二本であつた。

そこで一本の酒を温めてもらひ一本は冷酒で飲むことにして、これも袖に入れて往つてゐた盃へ注いだ。其の酒は大阪の税務監督局に

ある猪野々正治君から送つてくれたもので、それは今年の二府十縣の品評會に用ゐたもので、皆名譽賞と優等賞に入つた物ばかりであつた。其の持つて往つたのは、私の郷里でできる『瀧嵐』と云ふ酒と、他の一本は奈良の酒であつた。私たちは瀧嵐を飲んでゐた。

私の郷里には、此の瀧嵐の他に、司牡丹、富士川、仁淀川、葉柳などと云つて、最近灘の酒を凌駕するやうなりっぱな酒が出来るが、殊に司牡丹と瀧嵐は癖がなくて良酒であつた。

『沟にすみませんが、堀のままつけたものですから、底がぬけました、なんとも申しわけがございませんが、家の酒をかはりに持つて來ましたから、』

『しまつた。姐さん、あれや、此方ぢや手に入らん酒だよ、品評會に出した酒でね、』

と云つてはみたものの、破れてしまつてはしかたがない。それに姉がひどく恐縮してゐるので、

『まあいい、われたものならしかたがない、いい、いい、』

私たちはしかたなく其の代りだと云つて持つて來た酒を飲んだが初めに良い酒を飲んでゐるので、どうにも飲めない。そこで酒はさりあけて飯を喫つて其處を出た。

『これから、何處へ往かうか、』

と私が云ふと、清水君が、

『さうですね、下丸子の方へは何回も往つてゐるから、何處かちがつた處へ往きませうか、』

と云ふので、

『それぢや、大森の方へ出てみよう、』

と云つて、其處から乗合自動車で大森驛へ出た。

『へんな酒を飲まされて、後が悪い、何處かへ往つて飲みなほさうどうせ電車に乗るなら、家へ歸るも東京へ往くのも同じことだ、東京へ往かう、』

本門寺の旅館で拂つた金の残りが二圓あまりあつた。そこで一行はいよいよ東京へ往くことにして有樂町までの切符を買つた。有樂町驛の近くには、可川と云ふ私の宿坊があつた。

私たちは其の可川へ往つた。錫の容器へ入れて沸してくれる白鷹

と云ひ云ひ林君は私たちの卓の方へ寄つて來た。

は旨かつた。五時すぎまで飲んで、飲み疲れたので、これから日比谷公園を歩いて歸らうかと云つてゐるところへ、林譲治君が來た。

林君は林有造翁の御曹子で、土佐出身の代議士である。私と林君は親しかつた。

『よう、』

『よう、』

『此の比は、どうせよ、』

『いかん、いかん、今日は女の子を伴れて、活動を見に往ちよつた、』

林君は其處のお嬢さんと、女給を伴れて活動を見に往つてゐたところであつた。

『それや怪しからん、主翁が怒るぜよ、まあ、一ぱいやらう、』

『あしや、酒はやめちよる、今日は禁酒ぢや、』

## マダラ新報

『今日は歩きよつた、本門寺の方を歩きよつたが、本門寺がたうとう東京になつた、』

私たちはまたそこで林君を中心にしてひとしきり酒を飲んだ。酒がまはると、林君は盛節を唄ひ、土佐の民謡を唄つた。坂本君と清水君は新體詩の朗吟をやつた。

話はいつのまにか政治の方へ往つた。幣原外交がどうだとか、満洲事件がどうだとか云つてゐるうちに、私はすつかり酔つてゐた。そこで私たちは林君と別れて歸ることにして其處を出たが、歩くのもうるさいので、圓タクをひろつて目黒まで來たところで、また何處かへ往かうと云ふことになつて、たうとう洗足驛前の松風と云ふのへ往つておそらくまで飲んだが、其のうちに私は苦しくなつたので坂本君と清水君を残しておいて歸つた。それはもう十二時に近い頃であつた。

例の徳富蘆峰さんが土佐の事を書いて、土佐人は深刻なりと——それはありますよ。一時地方で一番人殺しが多かつたのは、土佐であります。今は變つて來ましたけれども、併しその恨みはいつか忘れてしまふ。餘所の人と私共交際してもさうだが、あの男はよいと思つて居つたが、案外だといふ人があるが、土佐の奴はさうぢやない。悪い奴は始めから悪い。偽せ物はゐない。單純ですが、土地なんかも割合天然に恵まれてゐます。農産物はないが、山々には木

があり、海には近い。村には大金持ちもない——岩崎は大金持ちだけども、が、他に大きな貧乏人もない。酒なんかも飲まうと思ふ奴は、ゆるやかだから飲みます。今はさうでないか知れませんが、私共村に居りました時、祭りの時なんかは、村から三里も追かけて行つて、彼奴面

るといふ、酔ひつかれて、村の知つてる者に連れられて歸ることもあります。それだけ緩かで、私など酒を飲み出したのはさういふ譯です。それから土佐の景色ですが、これも良いといへば良いし、悪いといへば悪い。東京日日新聞が二十八景を募つた時、室戸岬が入りましたけれども、それほどよいところではない。それより他にもつとよいところがあるやうですけれどもまあ他は平凡なところです。

文藝春社主催『お國自慢の座談會』より

マ ツ ダ 新 報

編輯後記に代へて

新しき年を迎へ、新しき心に勇氣をたゝへて、我が業界のため御努力遊さるゝ讀者諸賢の祝福を祈り、御健康を祈念して止まぬ次第である。

昭和七年はめぐり來つた。七と云ふ字は七福神の如き誠に芽出度意味に用ひられて居る。本年の業界を光明に導かるゝのは、各位の御健闘によらなければならぬ。昭和七年をして業界のラッキーラセブンとなさしめたまへ。

昨昭和六年は後半期に於て、特に國家多難の時であつた。世界的の經濟界の不況のうちに、或は満洲事變が勃發し、數回の政變があり、金の再禁止等があつて、其の影響する處は多大であつた。日本も初めて世界に於ける日本となりつゝある。この國難に直面して國民が如何なる態度を取るかは、大いに考慮を要する點と思ふ。

ボーツの發達である。本年は日本に於ても是非これが實現を期したい。

蹴球は勿論であるが、野球も矢張い記録を云々される以外のものならば、米國に於ては盛んに行はれて居るそらである。

本誌一月號に夜間スボーツに關する記事を掲載する豫定のところ記事幅湊のため、二月號で御目にかけることになつた。左様御諒承を乞ふ。

東邦電力會社吉川康太郎氏の「内面半艶消電球採用による增收策」は、内面半艶消電球を勧誘方面に採用されて成功された記録で、その方面の方々にはよき参考資料とならう。

高遠電燈會社取締役豐島晃先生の新年のお歌は郷土色を帶びたすがすがしいお作として、御愛詠の程をお願申上る。

一九三三年の人気は何と云つても、スポーツからとでも云ひうるであらう。

第一〇回国際オリンピック大會は、今夏北米ロスアンゼルスで行はれることになつて居り、既にシットードで競技が行はれんとして居る。

我が國も經費の許す限り多數の選手を送らんとして居る。スポーツによる國際親善と國民意氣の發揚とは、一石二鳥とも云ひうるであらう。

沈黙して居ると云はれる 照明界も、本誌巻頭の  
清水副社長の記事を一讀されたならば、浸々とし  
て進歩發達の跡が偲ばれるであらう。  
衛生的の見地からしてバイタライド・ランプの利  
用は今後盛んになることであらうし、光電管を利  
用しての自動式操作の應用も、本年は相當に用ひ  
られることゝ思はれる。

昭和七年  
一月十五日印刷  
一月二十日發行 定價  
一部三十五錢  
一ヶ年四圓  
(部金斗士)

東京電氣株式會社  
編輯人米山清

東京市本所區厩橋一丁目廿七ノ二  
印刷所 凸版印刷本所分工場

發行所  
東京電氣株式會社

電話  
大森三六五三一三六五四  
振替口座東京三八九四四

東京電氣株式會社

所張出